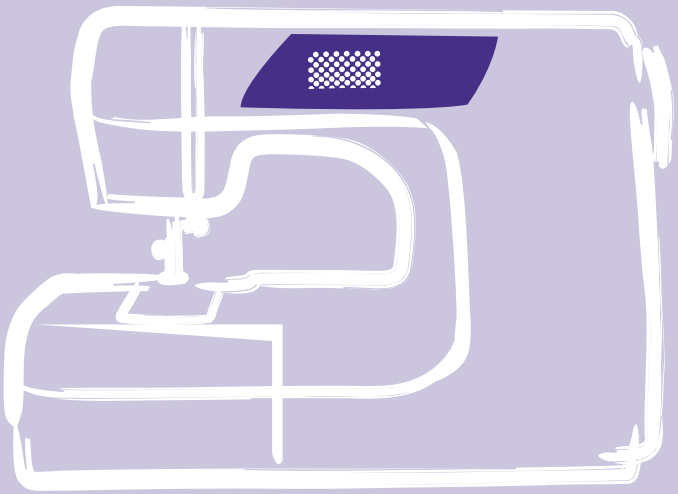
ご使用のしおり

《取扱説明書》



お買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に、この「取扱説明書」をよく
お読みいただき、正しくお使いください。

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の原因になります。

 必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
 必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき
 必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 禁　止	ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～ 35℃です。
 禁　止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

 分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
 接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 禁　止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
 禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。 また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因になります。

 禁　止	曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。
 禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。
 注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 必ず実行	以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 必ず電源プラグを抜く	以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
 必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

◎目　次

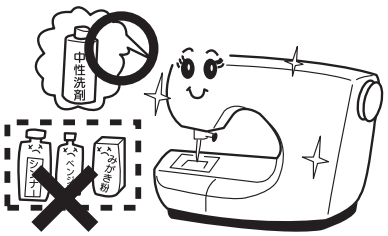
◎お取り扱いについてのお願い 2
◎各部のなまえ 3
◎補助テーブル 4
◎標準付属品と収納場所 4
◎基本操作 ..... 5 ～ 19
●電源のつなぎ方 5
★スタート／ストップボタン使用のとき 5
★フットコントローラー使用のとき 5
●スタート／ストップボタン 6
●速さの調節のし方 6
★スピードコントロールつまみ 6
★フットコントローラー 6
●操作ボタンの主なはたらき ..... 7～8
●送り歯のさげ方 9
●押さえの取りかえ方 9
●押さえホルダーの外し方、付け方 10
●押さえ上げ 10
●押さえ圧調節 10
●糸調子の合わせ方 11
★自動糸調子 11
★マニュアル糸調子 11
●針の取りかえ方 12
●布に適した糸や針を選ぶ目安 12
●下糸の準備をしましょう ..... 13～15
★ボビンを取り出します 13
★糸こまをセットします 13
★ボビンに糸を巻きます 14
★ボビンを内がまにセットします 15
●上糸の準備をしましょう ..... 16～18
★上糸のかけ方 16
★糸通しの使い方 17
★下糸を引きあげます 18
●表示画面の説明 19
●模様の選びかた 19
◎実用ぬい ..... 20～37
●直線ぬい ..... 20～21
★ぬい始め 20
★厚手の布端のぬい始め 20
★ぬい方向の変更 20
★ぬい終わり 21
●針板ガイドラインの利用 21
●ぬい目のあらさをかえるとき 22
●針位置をかえるとき 22
●直線状のぬい目 23
●ジグザグぬい 24
★ぬい目の幅・ぬい目のあらさをかえるとき 24
●たち目かがり 25
●トリコットぬい 26
●ボタンホール ..... 27～30
★ボタンホールの種類 27
★ボタンホール 24(スクエア)のぬい ..... 27～29
★ボタンホール重ねぬい 29
★ぬい目の幅・ぬい目のあらさをかえるとき 30
★ボタンホール 25、26 のぬい 30
●芯入りボタンホール 31
●ボタン付け 32
●ファスナー付け ..... 33～34
●ダーニング（つくろいぬい） 35
●かんぬき止めぬい 36
●まつりぬい 37
◎応用ぬい ..... 38～44
●シェルタック 38
●スカラップ 38
●アップリケ 39
●フリンジぬい 40
●サテン模様ぬい 41
●パッチワーク 41
●ピンタック 42
●ファゴティング 42
●飾りぬい 43
●止めぬいボタンを使った飾りぬい 43
●アイレット 44
●ボーダーガイド押さえの使い方 44
◎ミシンのお手入れ 45
●かまと送り歯の掃除 45
●内がまと針板の組み付け 45
◎こんな表示が出た場合 46
●表示画面の対処方法 46
●ブザー音の種類 46
◎ミシンの調子が悪いときの直し方 . 47～48

◎お取り扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

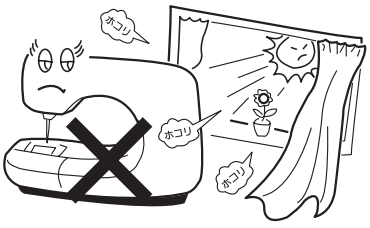


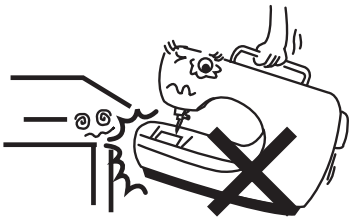
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。

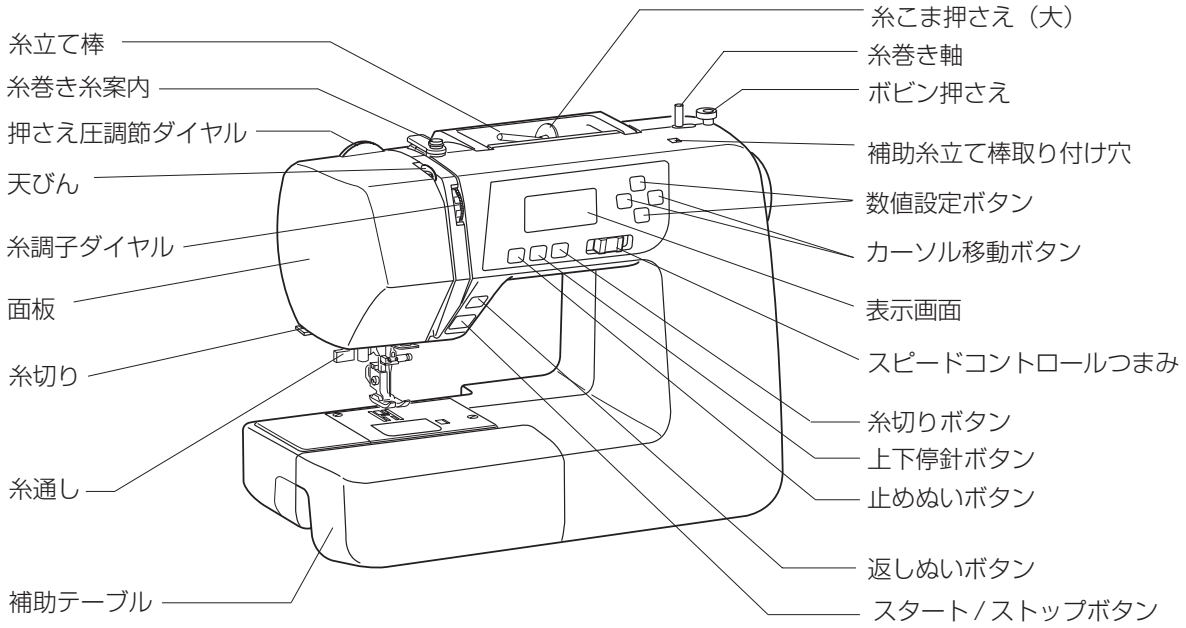


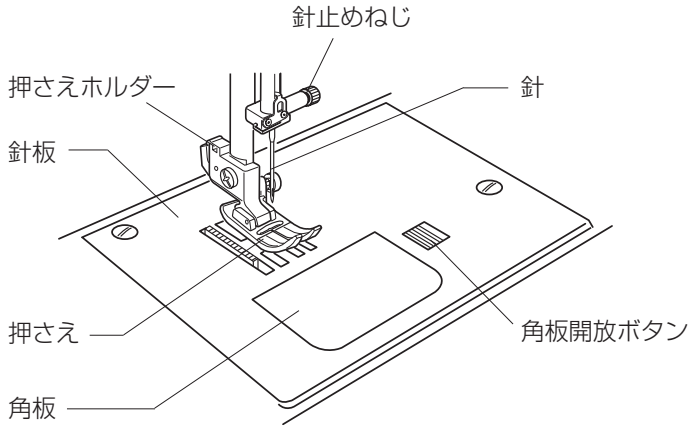


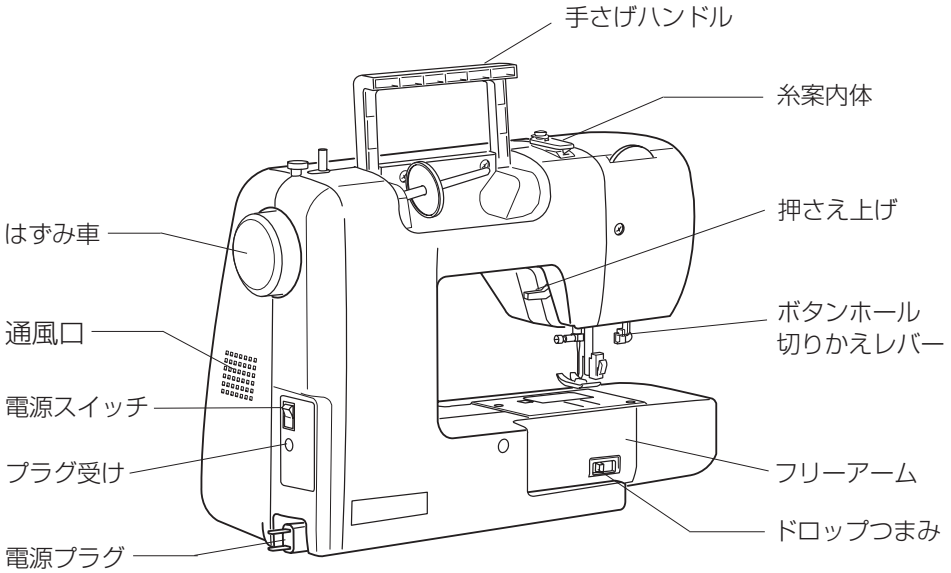
◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（47～48ページ）により点検・調整を行ってください。

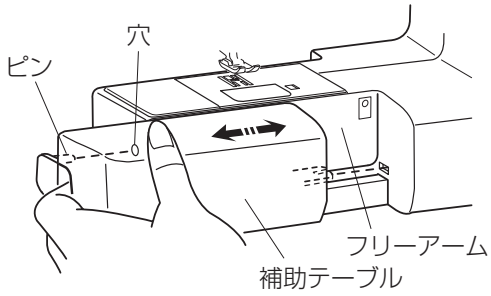
◎各部のなまえ


糸立て棒
糸巻き糸案内
押さえ圧調節ダイヤル
天びん
糸調子ダイヤル
面板
糸切り
糸通し
補助テーブル
糸こま押さえ（大）
糸巻き軸
ボビン押さえ
補助糸立て棒取り付け穴
数値設定ボタン
カーソル移動ボタン
表示画面
スピードコントロールつまみ
糸切りボタン
上下停針ボタン
止めぬいボタン
返しぬいボタン
スタート/ストップボタン


針止めねじ
押さえホルダー
針
針板
押さえ
角板開放ボタン
角板


手さげハンドル
糸案内体
押さえ上げ
はずみ車
ボタンホール
切りかえレバー
通風口
電源スイッチ
プラグ受け
フリーアーム
ドロップつまみ
電源プラグ

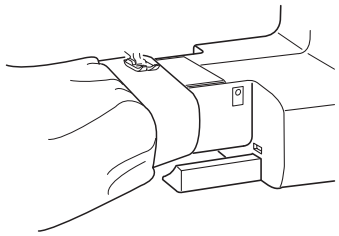
◎補助テーブル



【補助テーブルの外し方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

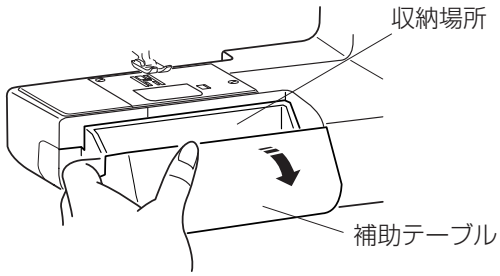
※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。



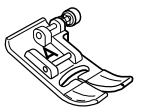
【フリーアームの使い方】

そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

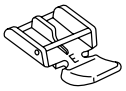
◎標準付属品と収納場所



補助テーブルを開けると、押さえ等の小物が収納できます。

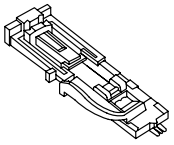

A：基本押さえ
※ミシン押さえホルダーに付いています。

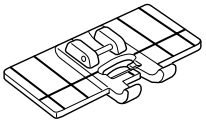

C：たち目かがり押さえ

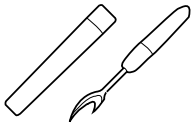

E：ファスナー押さえ

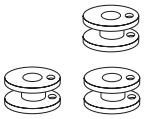

F：サテン押さえ

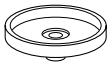

G：まつりぬい押さえ


R：ボタンホール押さえ


ボーダーガイド押さえ


シームリッパー

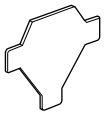

ボビン
※もう１つは、ミシン内がまに入っています。


糸こま受け台

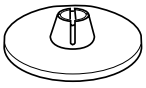

フェルト


ミシンブラシ


針

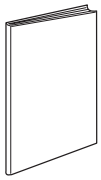

ドライバー

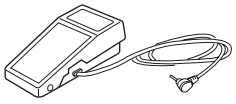

補助糸立て棒

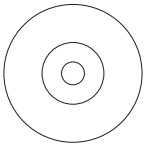

糸こま押さえ（大）


糸こま押さえ（小）

※糸こま押さえ（大）はミシン糸立て棒に付いています。


取扱説明書


フットコントローラー
※モデルによりオプションになります。

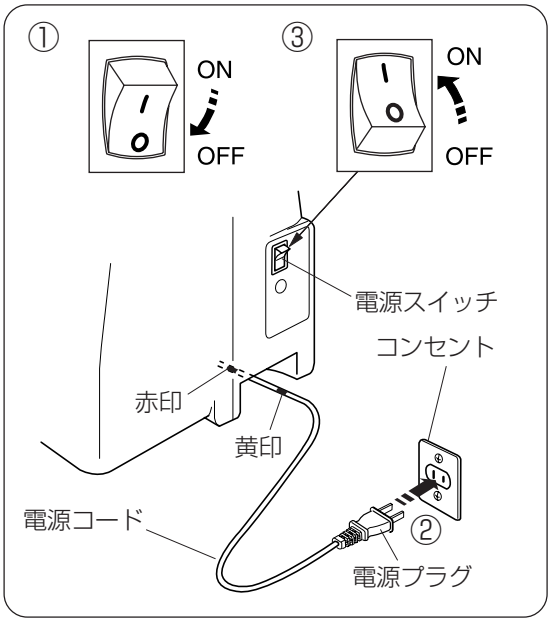

説明DVD

◎基本操作

●電源のつなぎ方

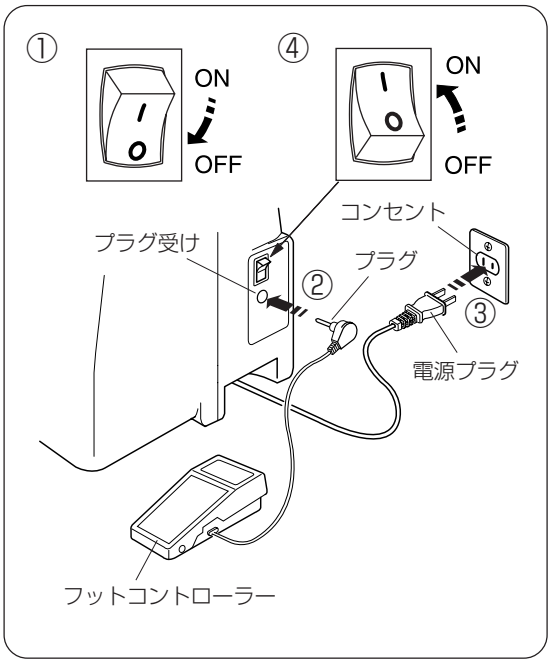
⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
  ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
  ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり**火災の原因になります。**



★スタート/ストップボタン使用のとき

①電源スイッチを「OFF」（切）にします。
②電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
③スイッチを「ON」（入）にします。
※電源コードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。黄印が出たら 30cm ぐらいで、赤印になります。



★フットコントローラー使用のとき

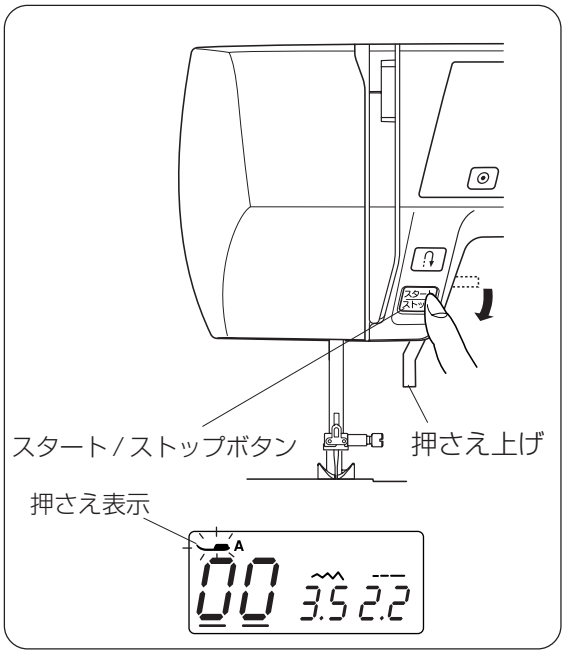
（※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。）

①電源スイッチを「OFF」（切）にします。
②フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
③電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
④電源スイッチを「ON」（入）にします。
※ フットコントローラーを接続したときは、スタート/ストップボタンは使えません。



フットコントローラーを接続すると、表示画面にフットコントローラー表示されます。

●スタート / ストップボタン



押さえ上げをさげてボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。
もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

※スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ（手をはなすまで）は、低速で動きます。

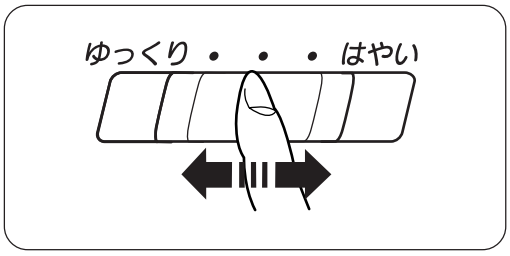
※スタート/ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。

※スタート/ ストップボタンを押したとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてからスタート/ストップボタンを押してください。

●速さの調節のし方

ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。

★スピードコントロールつまみ



ぬう速さは、自由にセットできますので、スピードコントロールつまみをお好みの速さにセットしてください。

★フットコントローラー



フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。
フットコントローラーを一杯に踏み込んだときの最高速度は、スピードコントロールつまみのセットした位置で決まります。

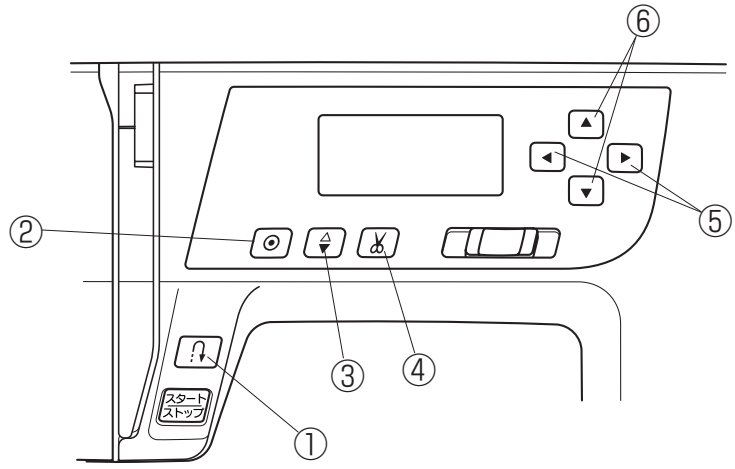
※通常、スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてお使いください。

※フットコントローラーを接続したときは、スタート / ストップボタンは使えません。

※フットコントローラーを踏んだとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてからフットコントローラーを踏んでください。

※フットコントローラーの上に物を乗せないでください。けがや故障の原因になります。

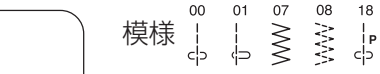
●操作ボタンの主なはたらき



①返しぬいボタン



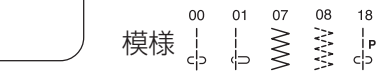
【運転中の返しぬい】

模様  は、ぬっている途中でボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをします。

その他の模様のときには、すぐに数針止めぬいをして自動的に止まります。

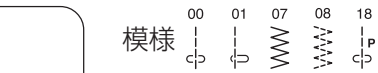
【停止中の返しぬい】

（フットコントローラーを接続しているときは、使用できません。）

模様  は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押しているあいだは返しぬいをし、指をはなすと止まります。

②止めぬいボタン



模様  は、ボタンを押すと止めぬいをして自動的に止まります。

その他の模様のときには、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

※ぬう前にボタンを押しておくと、模様を１つぬって自動的に止まります。

③上下停針ボタン

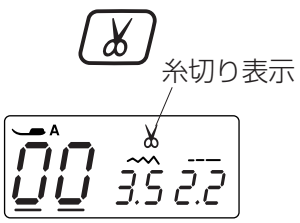


ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置が上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。

※上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンをとめたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。（電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。）

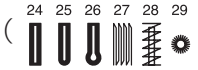
※下位置に切りかえておいても、模様（）は、ぬい終わったときは、上位置で止まります。

④糸切りボタン



ぬい終わったあとに糸切りボタンを押すと、上糸と下糸を自動的に切ります。
※糸切り動作中は、糸切り表示が点滅します。

【糸切り記憶】

模様を選んで、糸切りボタンを長く押し、表示画面に糸切り表示を点灯させると、糸切りを記憶をすることができます。
糸切り記憶をしておくと、ぬい終わりに止めぬいが入っている模様（

）は、ぬい終わったあと糸切りボタンを押さなくても自動的に糸切りが行われます。
また、その他の模様も止めぬいボタンまたは返しぬいボタンを押して、ぬい終わりに止めぬいを入れると、ぬい終わってから自動的に糸切りが行われます。
※ぬい終わりに止めぬいを行う方法は、7ページの返しぬいボタンと止めぬいボタンをごらんください。

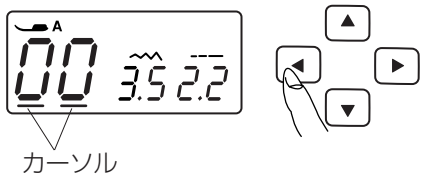
【糸切り記憶の解除】

糸切りボタンを長く押して、糸切り表示を消します。

【糸切りの注意事項】

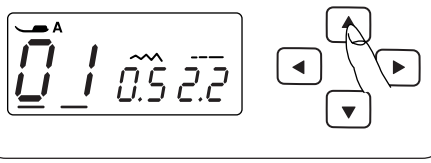
1. 30番および30番より太い糸、または特殊糸を切るときには面板に付いている糸切りを使用してください。
2. 糸切り後は、下糸は引き出さなくても、ぬうことができます。
3. 糸こまの糸残りが少ないものは、使用しないでください。糸がらみなどの原因になります。
4. 糸切り部に糸くずがたまると故障の原因になりますので、「ミシンのお手入れ」を参考に、糸くずを取り除いてください。（45ページをごらんください。）
5. 糸が切れず糸がからんでしまった場合は、電源を切り、針板を外して、からんでいる糸を取り除いてください。（45ページをごらんください。）

⑤カーソル移動ボタン



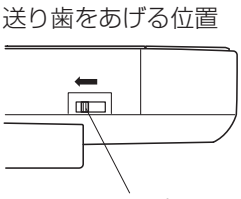
モード（模様、ぬい目の幅、ぬい目のあらさ）を選ぶときは、◀ ▶ ボタンを押します。
※◀ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。
※▶ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

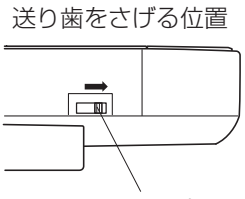
⑥数値設定ボタン



モードの数値を変更するときには、▲ ▼ ボタンを押します。
※▲ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。
※▼ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

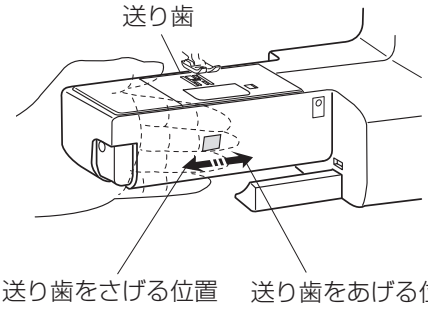
●送り歯のさげ方





ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットして、送り歯をさげます。

※終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

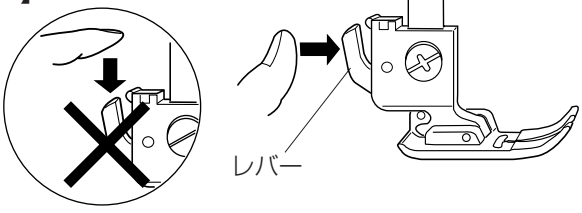




●押さえの取りかえ方

⚠ 注意
電源スイッチを切ってから行ってください。押さえは、模様に合ったものをご使用ください。 押さえが合っていないと、針が押さえにあたり、**けがの原因になります。**

【1】

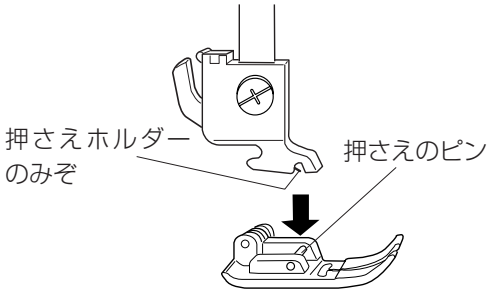


【1】外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

※レバーを上から押すと、故障の原因になります。

【2】



【2】付け方

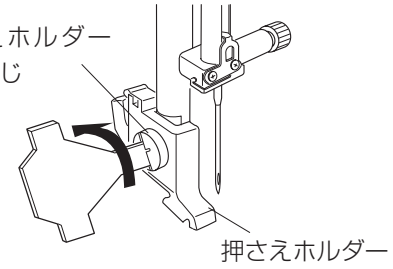
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

●押さえホルダーの外し方、付け方

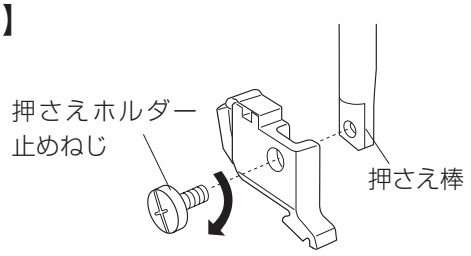
⚠ 注意

押さえホルダーの取り外し、取り付けをするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

【1】



【2】



※ミシンのお手入れなどのときに外します。

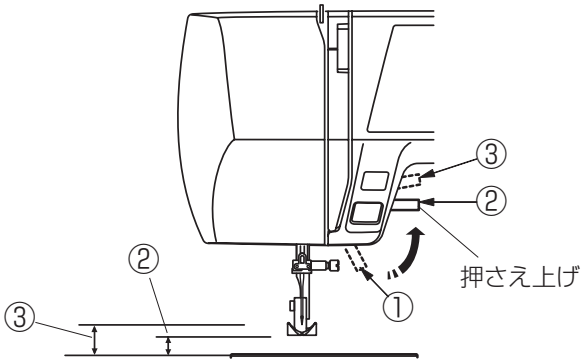
【1】外し方

押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【2】付け方

押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

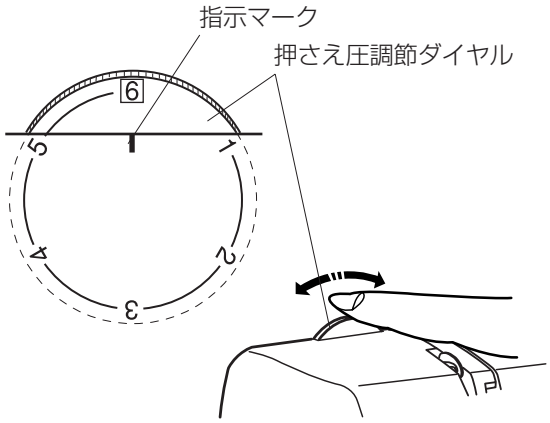
●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。
厚い布を入れるときにお使いください。

①さげた位置 ..... 糸通し使用のときと、ぬいのときには、さげておきます。
②普通にあげた位置. 布の取り出しや、上糸をかけるとき、押さえの交換のときにあげます。
③さらにあげた位置. 厚い布が入れやすくなります。

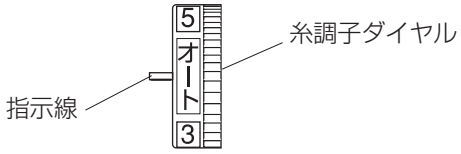
●押さえ圧調節



押さえ圧調節ダイヤルをまわし、数字を指示マークに合わせます。
普通ぬいのときは「6」に合わせます。
小さな数字に合わせると、押さえ圧は弱くなります。
うす手の布地や伸縮性のある布地をぬうとき、および、アップリケなどぬいしろ部分が重なりあうものをぬうときには「4」から「2」に合わせます。

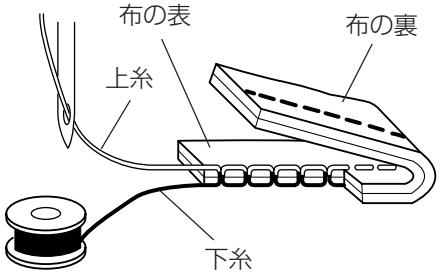
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



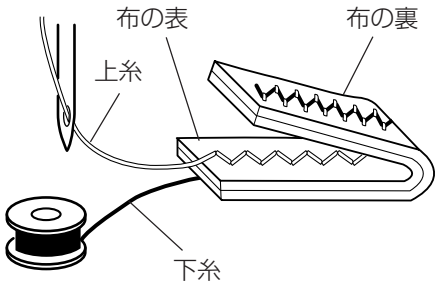
糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランス良くぬえるように、自動セットされます。

【1】



【1】バランスのとれた糸調子

※直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。



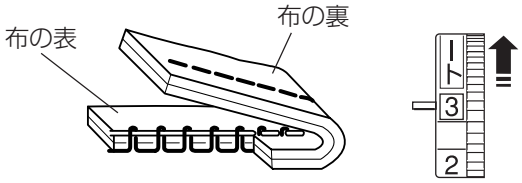
※ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【2】

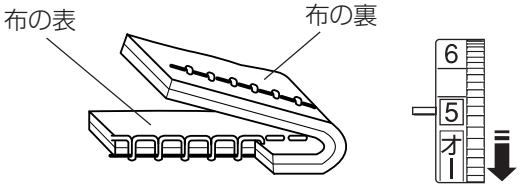


【2】上糸が強すぎるとき

下糸が布の表に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【3】



【3】上糸が弱すぎるとき

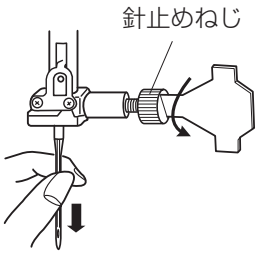
上糸が布の裏に出ます。

・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

●針の取りかえ方

⚠ 注意
針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。 **けがの原因になります。**

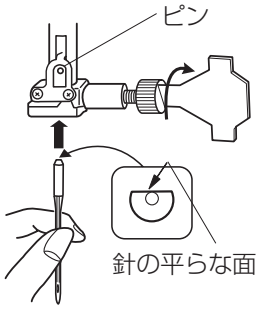
【1】



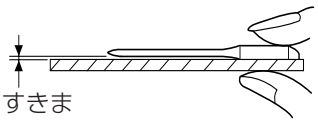


電源スイッチ

【2】



【3】



※針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】外し方

針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル　90番	9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹　糸　50番 綿　糸　60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿　糸　50番	14番
厚い布	デニム ツィード コート地	絹　糸　50番 綿　糸　40番～50番 ポリエステル　40番～50番	14番～16番
		ポリエステル　30番 綿　糸　30番	16番

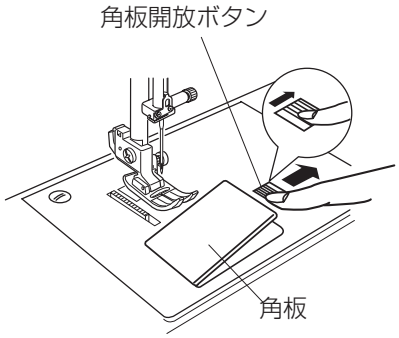
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

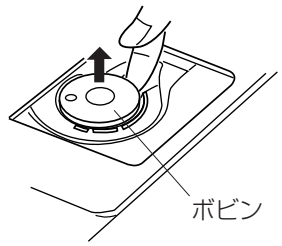
※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針（オプション）を使用すると目とびの防止効果があります。

●下糸の準備をしましょう

★ボビンを取り出します



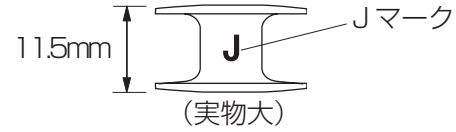


※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

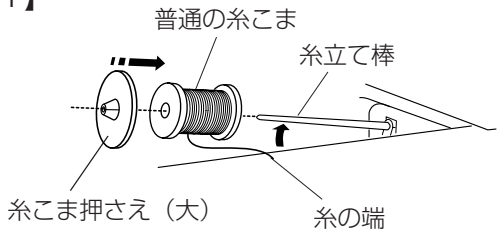
お願い

ボビンは当社専用の Jマーク付きプラスチックボビンをの使用してください。
（お買い上げの販売店へご相談ください。）



★糸こまをセットします

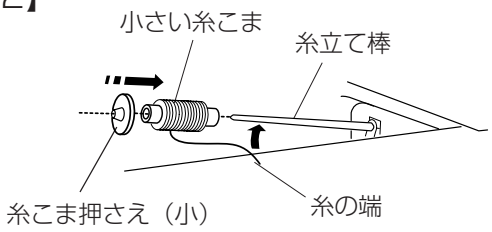
【1】



【1】普通の糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。

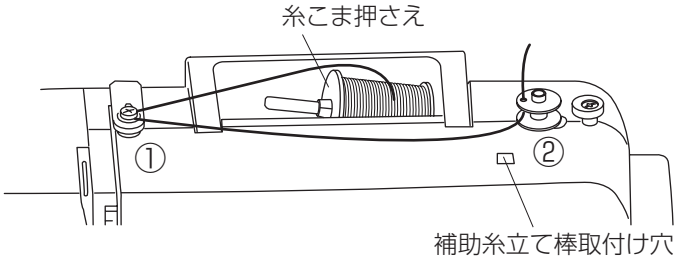
【2】



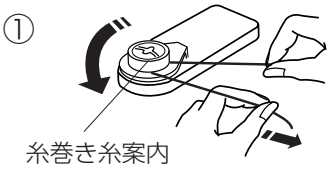
【2】小さい糸こまのとき

小さい糸こまのときには、糸こま押さえ（小）を使ってください。

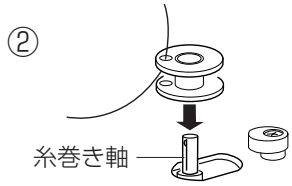
★ボビンに糸を巻きます



※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。



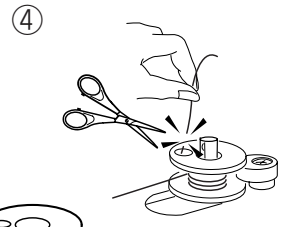
① 糸こま側の糸を押さえ、うしろ側から手前にまわし、矢印方向に引いて、糸巻き糸案内にかけます。



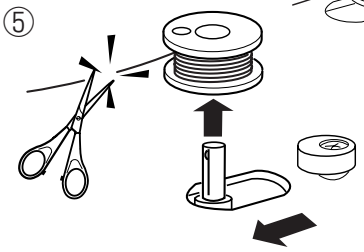
② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。表示画面に糸巻き表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

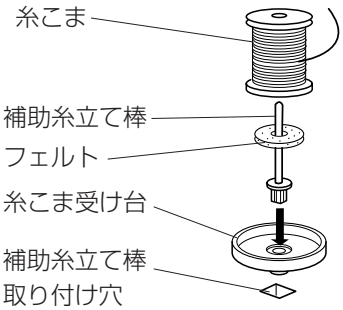


④ 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。



⑤ ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。
ミシンを止めます。糸巻き軸を戻し、糸巻き軸からボビンを外し、糸を切ります。

【補助糸立て棒の利用】

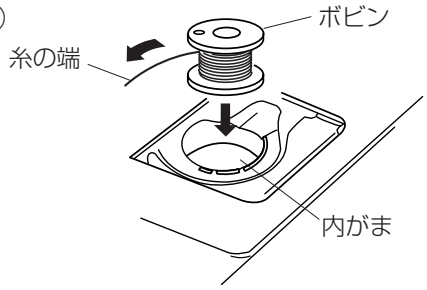


※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。
※ 糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約2分間で自動停止します。
※ 糸巻きには補助糸立て棒も利用できます。
補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。糸の端は糸こまの右側からうしろに出るようにします。

★ボビンを内がまにセットします

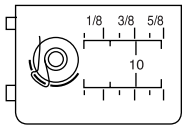
⚠ 注意
ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。 **けがの原因になります。**

①

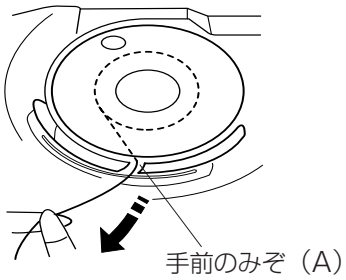


① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。

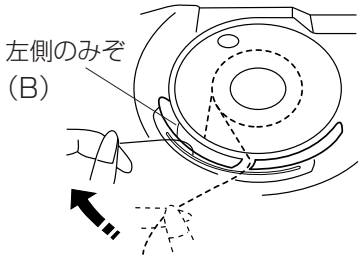


②



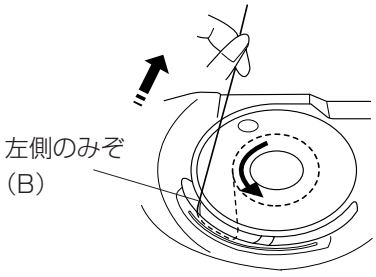
② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。

③



③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ（B）のところに出します。

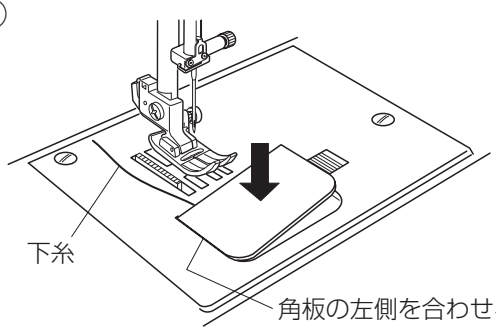
④



④ 糸を左側のみぞ（B）にかけるように向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

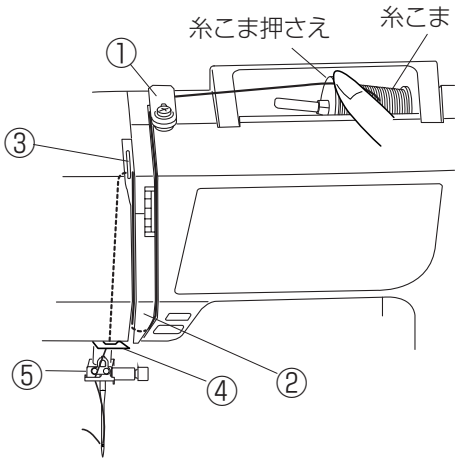
⑤



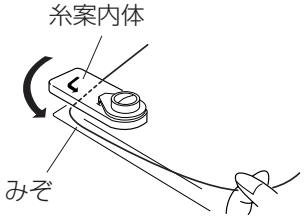
⑤ 下糸は10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

●上糸の準備をしましょう

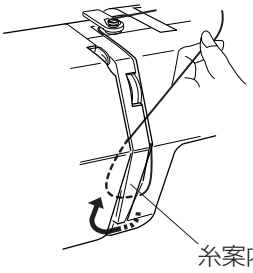
★上糸のかけ方



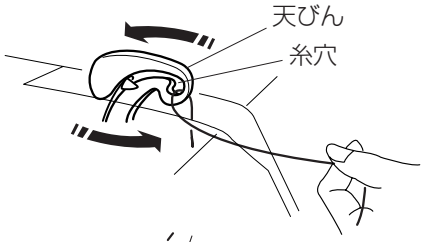
①



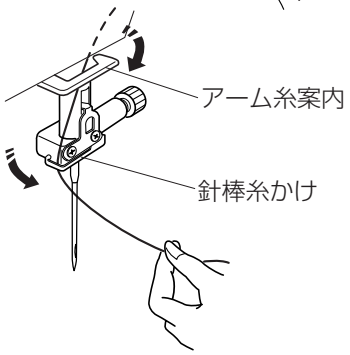
②



③

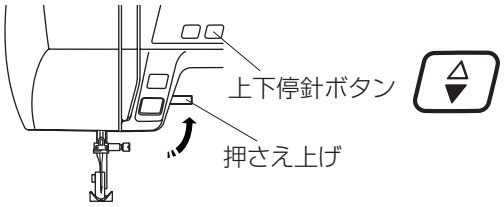


④ ⑤



【お願い】はじめに、準備を必ず行なってください。
ぬい不良の原因になります。

【準備】



1 押さえ上げをあげます。
2 電源を入れ「上下停針ボタン」を押して、針を上にあげます。
3 電源を切ります。

⚠ 注意

準備が終わったら、必ず電源スイッチを切ってください。**けがの原因になります。**

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こまから出ている糸を押さえて、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

※ 押さえ上げがあがっていないと、糸が正しくかけられません。ぬい不良の原因にもなりますので、押さえ上げがあがっているか確認してください。

③ 糸を天びんの右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

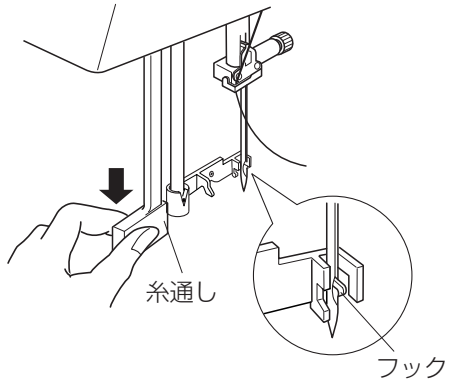
④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

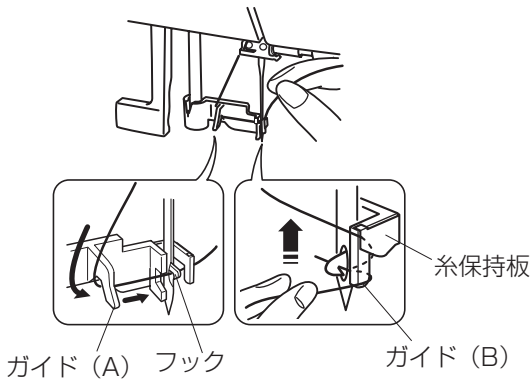
※ 針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、17ページをごらんください。

★糸通しの使い方

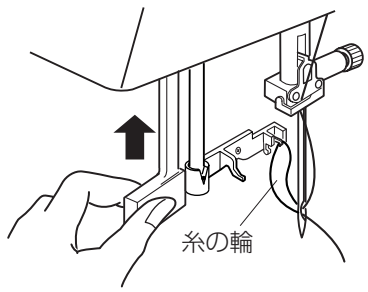
①



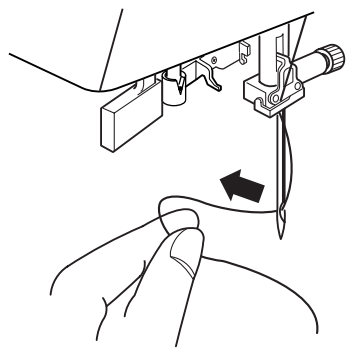
② ③



④



⑤



⚠ 注意

糸通しを使うときには、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

※ 針は、11 番～ 16 番
糸は、50 番～ 90 番が使えます。

① 針をあげます。
糸通しを止まるまで引きさげます。
糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

② 糸を左側からガイド（A）とガイド（B）にかけます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。

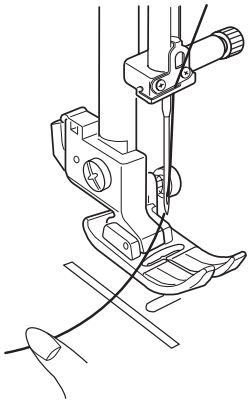
③ 糸をガイド（B）の右から手前にまわして、そのままガイド（B）の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

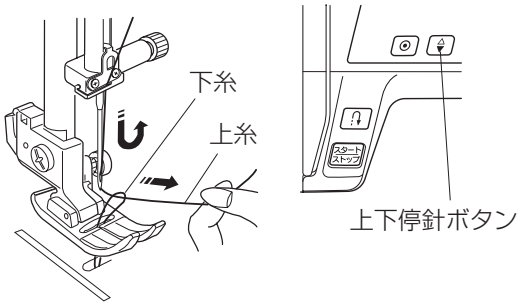
★下糸を引きあげます

①



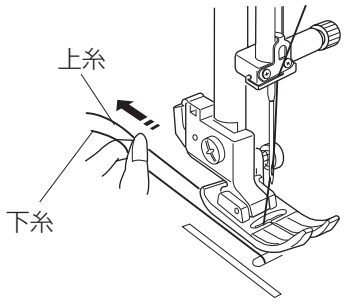
① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②



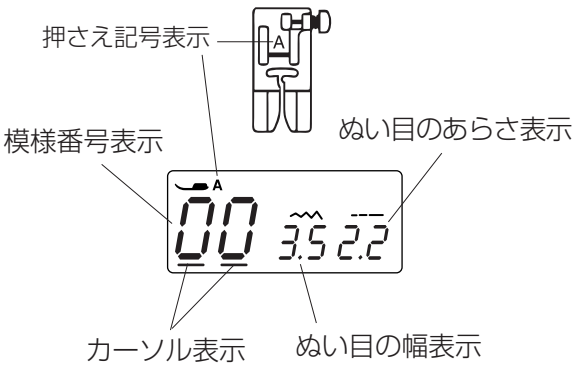
② 電源を入れ、上下停針ボタンを２回押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

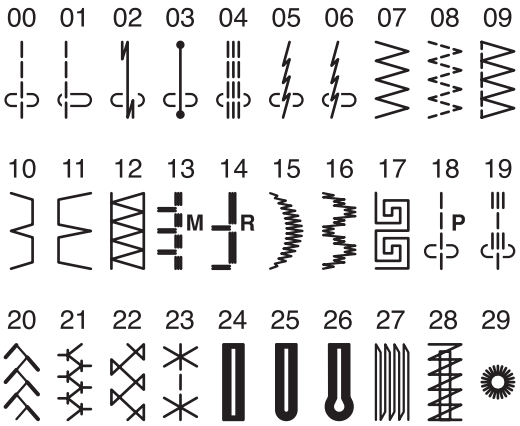
③



③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約10cmほどうしろにそろえて引き出します。

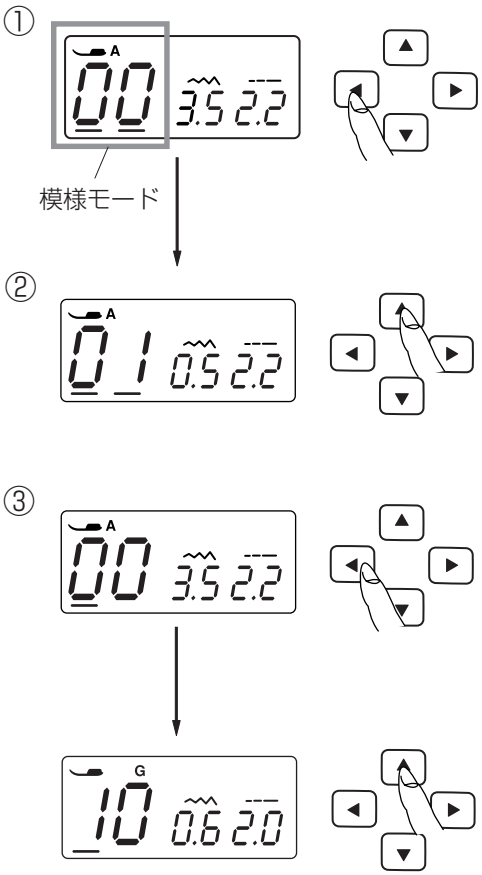
●表示画面の説明





●模様の選びかた

▲▼ ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。



① ◀ ▶ ボタンで模様モー ドを選びます。

② カーソルが２つあるときに、▲▼ ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。

③ ◀ ボタンを押して、カーソルを１つにして、▲▼ ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。

※ ぬい目の幅、ぬい目のあらさの変更は、22、24 ページをごらんください。

◎実用ぬい

●直線ぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
00	00 3.5 2.2	A：基本押さえ	オート（5 オート 3）

★ぬい始め

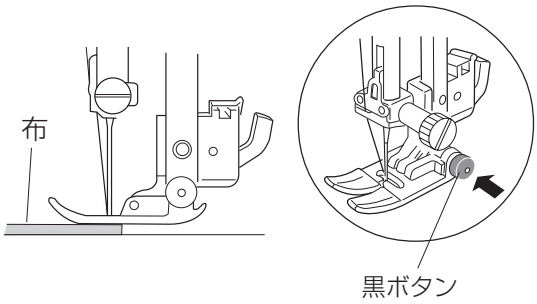


糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様 02 と自動止めぬい模様 03 を使う方法があります。（23 ページをごらんください。）

※ スタート／ストップボタンを押したとき、表示画面の押さえ表示が点滅したときは、押さえ上げをさげてスタートします。

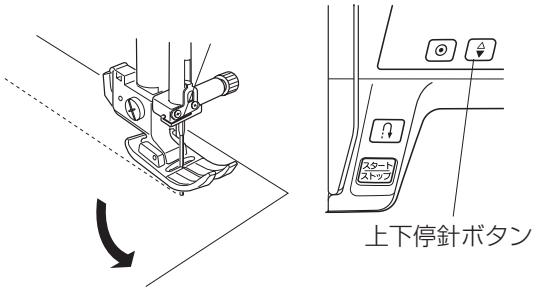
★厚手の布端のぬい始め



① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

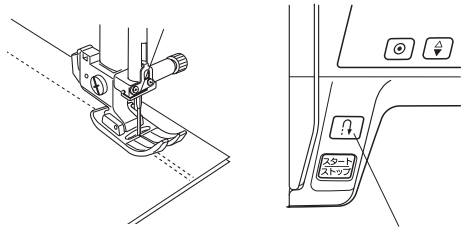
★ぬい方向の変更



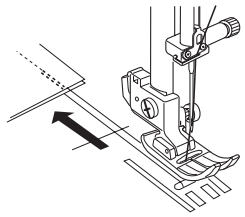
ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わり

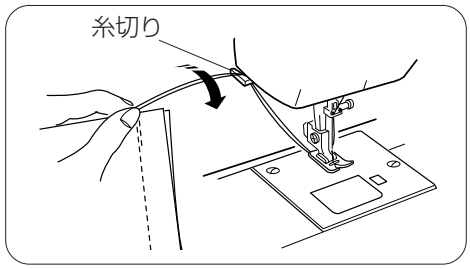
【1】



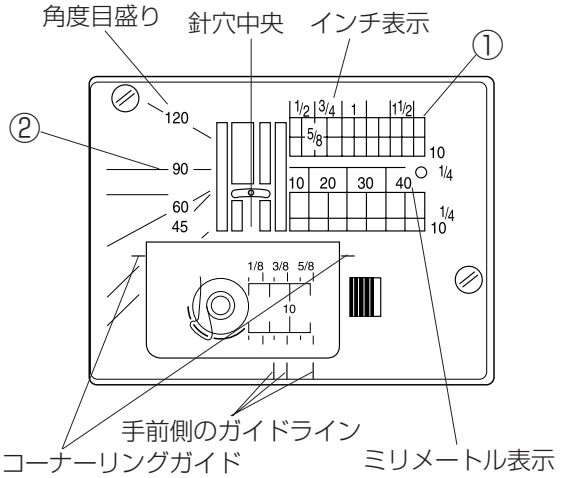
【2】

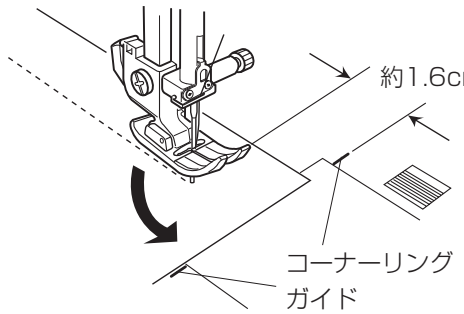


【3】



●針板ガイドラインの利用





【1】返しぬい

返しぬいボタンを押しながら数針返しぬいをします。

※ぬい終わりのほつれ止めは返しぬいボタンを押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様 02 と自動止めぬい模様 03 を使う方法があります。（23 ページをごらんください。）

【2】布の引き出し方

針があがった位置で押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】糸切り

ミシンを止め、糸切りボタンを押して糸を切ります。

※ 30 番および 30 番より太い糸、または特殊糸を切るときには、面板に付いている糸切りを使用してください。布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

針板、および角板には針穴中央からの長さを表示しています。

① 針板右側には 針穴中央からの長さを表示しています。

※ ガイドラインの数字は針穴中央からガイドラインの間かくを「ミリメートル」と「インチ」で示しています。

※ 針板の手前側にもガイドライン左から 0.6cm(1/4)、0.9cm(3/8)、1.6cm(5/8) を表示しています。

布端をガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

② 針板左側にはパッチワークのピース作りに使う角度目盛りを表示しています。

※ パッチワーク布片の形状により針板の角度目盛りに合わせると印なしでぬえます。

【コーナーリングガイドの利用】

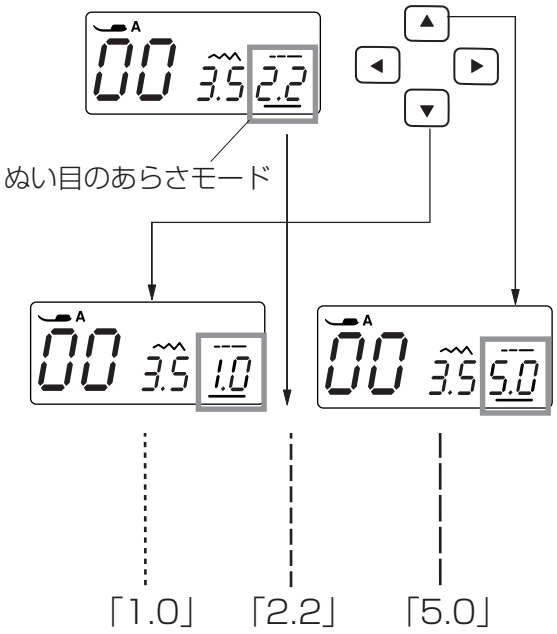
布端から1.6cmのところで直角にぬい方向をかえるとき

① 布端がコーナーリングガイドのところにきたら、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して、針を布にさします。

② 押さえをあげ、布を回転させてガイドラインの 1.6cm(5/8) に合わせます。

③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートします。

●ぬい目のあらさをかえるとき



◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 2.2 です。

※0.0～5.0のはんいでかえることができます。（0.0から1.0に、1.0から1.5に、1.5から1.8にかえることができます。1.8から3.0まで0.2ずつかえることができ、また3.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）

※ぬい目のあらさは、布や糸によりかわりますので、画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

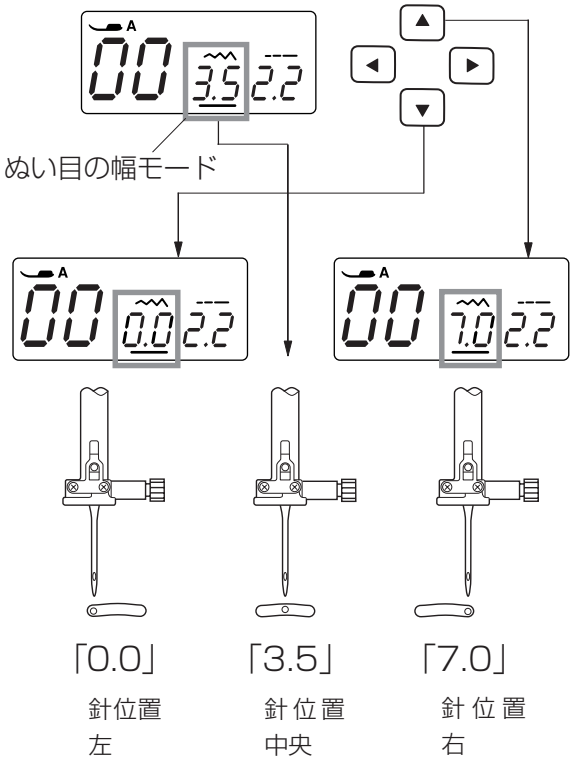
「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目があらくなります。

※返しぬいのぬい目あらさは、表示数値より小さくなります。

※直線状のぬい目、模様 00 01 02 03 04 18 19 は、針位置をかえることができます。

●針位置をかえるとき



◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 3.5 です。

※模様01の初期値（購入時のセット状態）は0.5です。

※0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

※画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。

画面の数値は直線状模様の場合は、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。

「▼ ボタン」を押すと表示される数値が小さくなり、針位置が左に移動します。

「▲ ボタン」を押すと表示される数値が大きくなり、針位置が右に移動します。

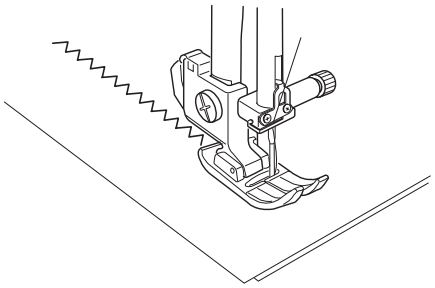
●直線状のぬい目

ミシンのセット	用途
地ぬい 模　様　00　01 押さえ　A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル　オート	地ぬいや、ファスナー付けなどに利用します。 ※模様 01 は、端ぬいに利用します。
自動返しぬい 模　様　02 押さえ　A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル　オート	しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。 ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。 ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。 数針返しぬいをして自動的に止まります。 糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。
自動止めぬい 模　様　03 押さえ　A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル　オート	目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。 ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。 ぬい終わりにきたら、返しぬいボタンを一度押します。 止めぬいをして自動的に止まります。 糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。
三重ぬい 模　様　04 押さえ　A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル　オート	伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに利用します。
伸縮ぬい 模　様　05　06 押さえ　A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル　オート	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。 また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。 ※模様 06 は、うす地のニット素材に利用します。
ピーシング 模　様　18 押さえ　A: 基本押さえ 糸調子ダイヤル　オート	ぬい目のあらさ 1.8mm のパッチワークキルトに利用します。 ※針板手前側のガイドライン 0.6cm（1/4）はパッチワークピース作りに利用ください。（21 ページをごらんください。） ※模様の横にある P はピーシングを表示しています。
飾りぬい 模　様　19 押さえ　F: サテン押さえ 糸調子ダイヤル　オート	飾りぬいや、キルティングなどに利用します。

●ジグザグぬい

ミシンのセット

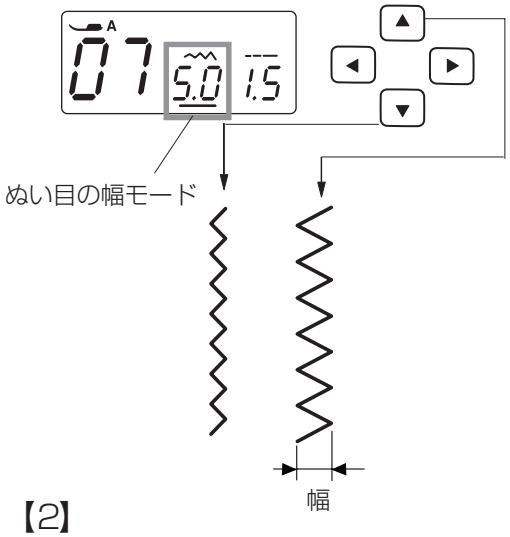
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
07	07 5.0 1.5	A： 基本押さえ	オート 5 オート 3



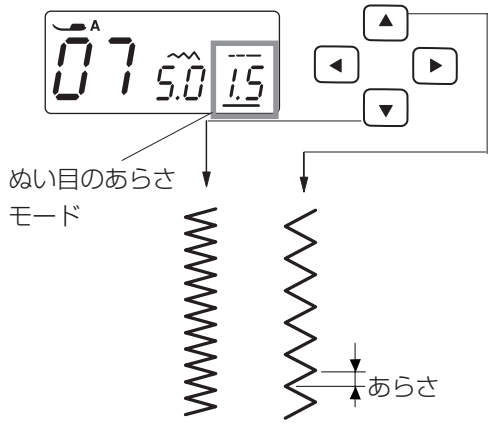
伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の幅・ぬい目のあらさをかえるとき

【1】



【2】



【1】ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 5.0 です。

※0.0～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

※画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。

「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、幅が広くなります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、幅がせまくなります。

【2】ぬい目のあらさをかえるとき

◀ ▶ ボタンを押して、ぬい目のあらさモードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 1.5 です。

※0.2～5.0のはんいでかえることができます。（0.2～1.0まで0.1ずつ、1.0から5.0まで0.5ずつかえることができます。）

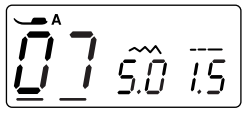
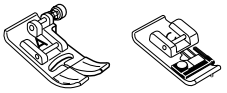
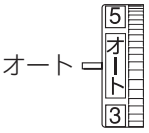
※画面の数値は目安としてミリメートルで　表示しています。

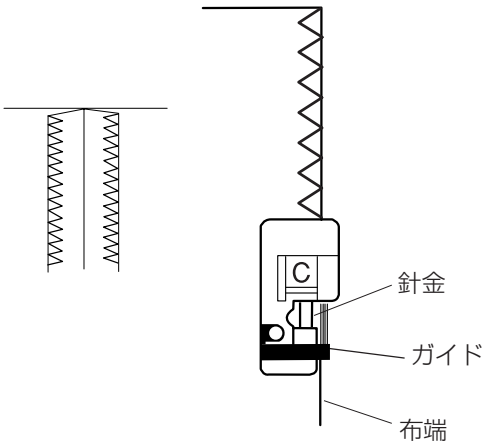
「▲ ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、あらさがあらくなります。

「▼ ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、あらさが細かくなります。

●たち目かがり

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
07		 A：基本押さえ　または C：たち目かがり押さえ	



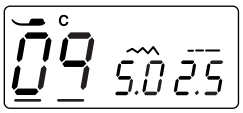
布端をたち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。
布端のほつれ止めとして広く利用します。

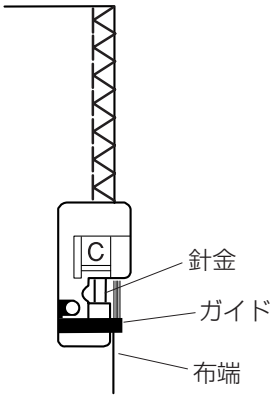
※たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0 ～ 7.0 でぬいます。

⚠ 注意

たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。針が針金にあたり、**けがの原因になります。**

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
09		 C：たち目かがり押さえ	

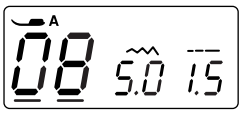
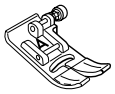
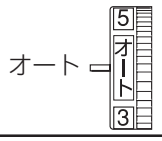


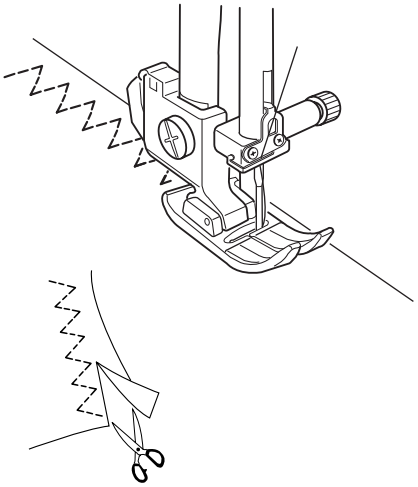
地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使用します。
布端をガイドにあててぬいます。

※ぬい目の幅は、5.0 ～ 7.0 でぬいます。

●トリコットぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
08		 A：基本押さえ	



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

●ボタンホール

★ボタンホールの種類

24 	◎スクエア（両止め） 普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
25 	◎片ラウンド 普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。
26 	◎キーホール（鳩目穴） 普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

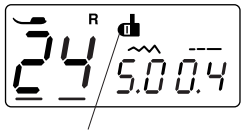
★ボタンホール 24（スクエア）のぬい

ミシンのセット

模様

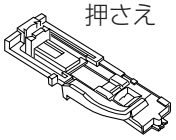
24 

表示画面



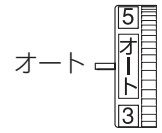
ボタンホール切りかえレバー表示

押さえ



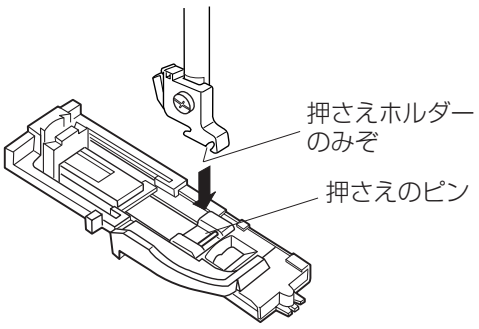
R : ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル



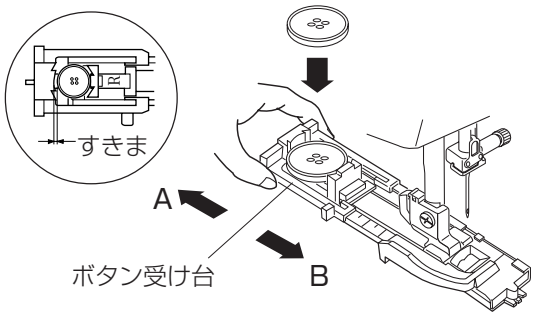
※ボタンホールを選ぶと、表示画面にボタンホール切りかえレバー表示されます。
　ボタンホールをぬうときには、ボタンホール切りかえレバーをさげてぬいます。
※ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台に
　はさみこむと自動的に決まります。（28 ページをごらんください。）
※ボタンの直径が 1.0 ～ 2.5cm までのボタンホールができます。
※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①



① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

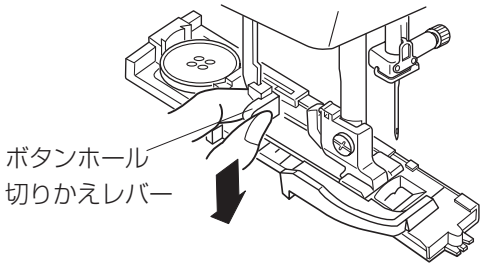
②



② ボタン受け台をＡ方向に引き、ボタンをのせてＢ方向に戻しはさみます。

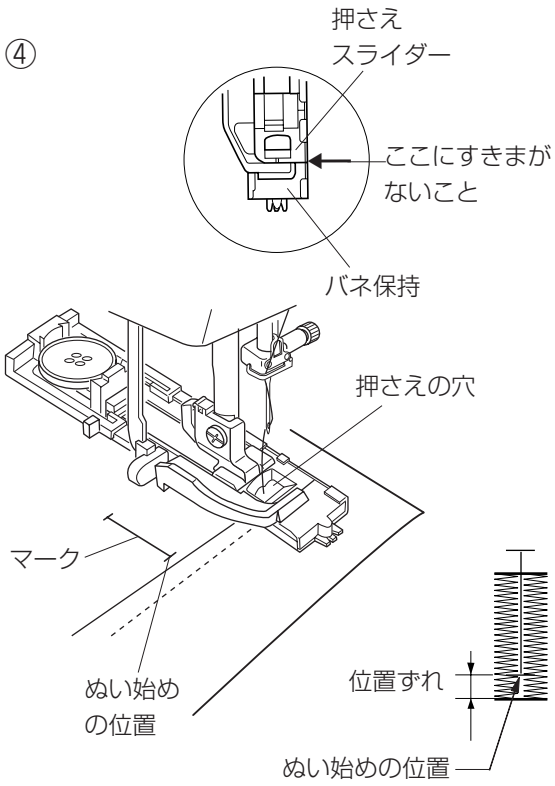
※ ボタン受け台とボタンの間にすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

③



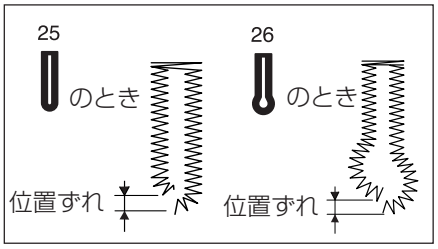
③ ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④



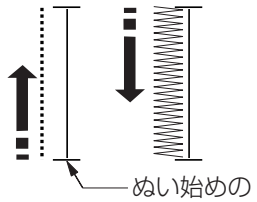
④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。
ぬい始めの位置ずれになります。

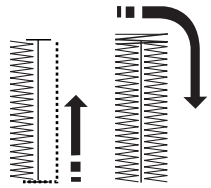


⑤

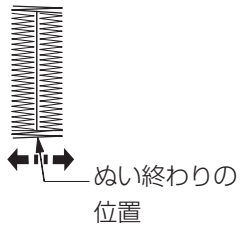
【1】

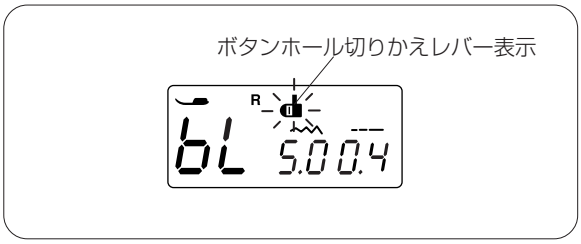


【2】

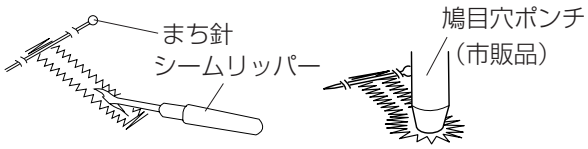


【3】

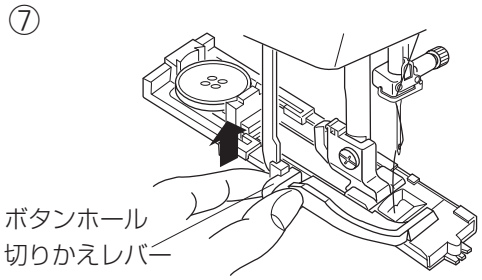




⑥



⑦



⑤ ミシンをスタートしてぬいます。
［ぬっていく順序］

【1】第1ステップ ..... 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

【2】第2ステップ ..... 下ぬいのあと、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

【3】第3ステップ ..... かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。

糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。

★ボタンホール重ねぬい

ボリューム感のあるボタンホールができます。

一度目のボタンホールをぬい終わったら押さえ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。
自動的に重ねぬいをします。

ぬい途中に模様番号が bL と表示（2〜3秒）され、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅したとき

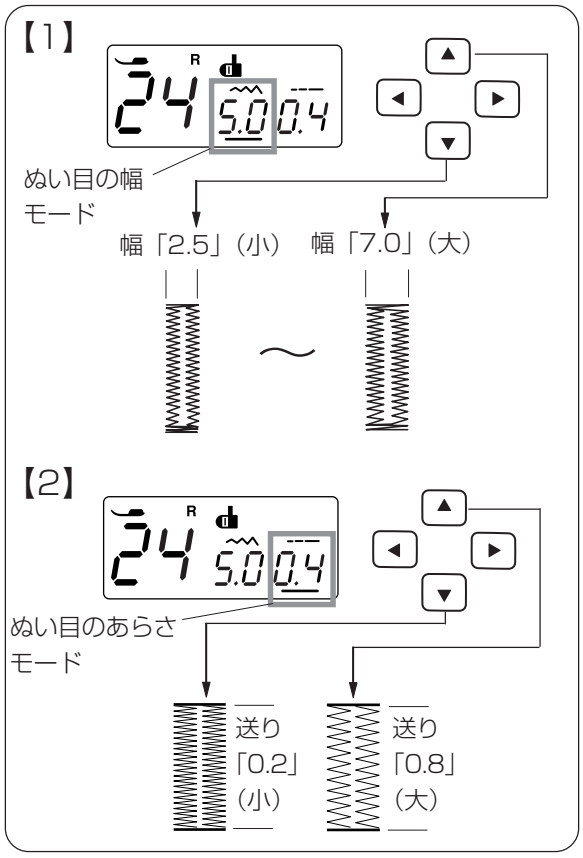
ボタンホール切りかえレバーをさげないで、ボタンホールを0.5cmぬったときに表示します。
ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。

⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

※ キーホールボタンホールは、市販のポンチで穴を開けてから、シームリッパーで切り開きます。

⑦ ぬい終わったらボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。

★ぬい目の幅・ぬい目のあらさをかえるとき



【1】 ぬい目の幅をかえるとき

◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は5.0です。

「▲ボタン」、「▼ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかえられます。

※2.5～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

【2】ぬい目のあらさをかえるとき

◀ ▶ ボタンで、ぬい目のあらさモードを選びます。

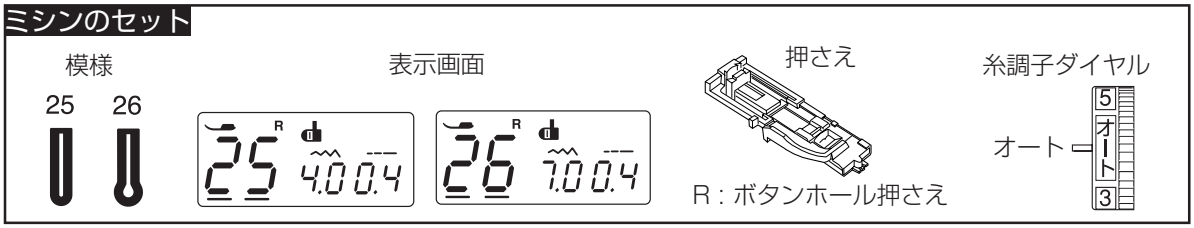
初期値（購入時のセット状態）は0.4です。

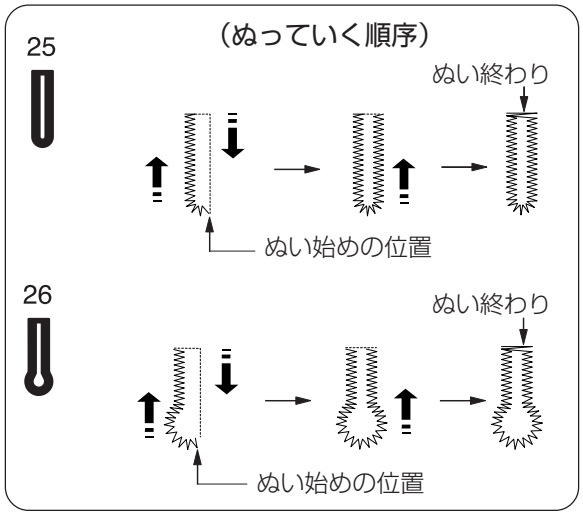
「▲ボタン」、「▼ボタン」を押すと、ぬい目のあらさがかえられます。

※ 0.3～0.8のはんいで0.1ずつかえることができます。

★ボタンホール25、26のぬい

ミシンのセット





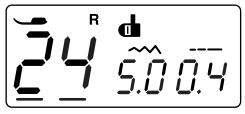
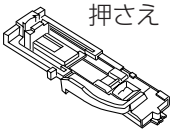
※ぬい方はボタンホール24（スクエア）と同じです。
（27～29ページをごらんください。）

※模様25のぬい目の幅は2.5～5.5のはんいで0.5ずつかえることができます。
模様26のぬい目の幅は5.5～7.0のはんいで0.5ずつかえることができます。

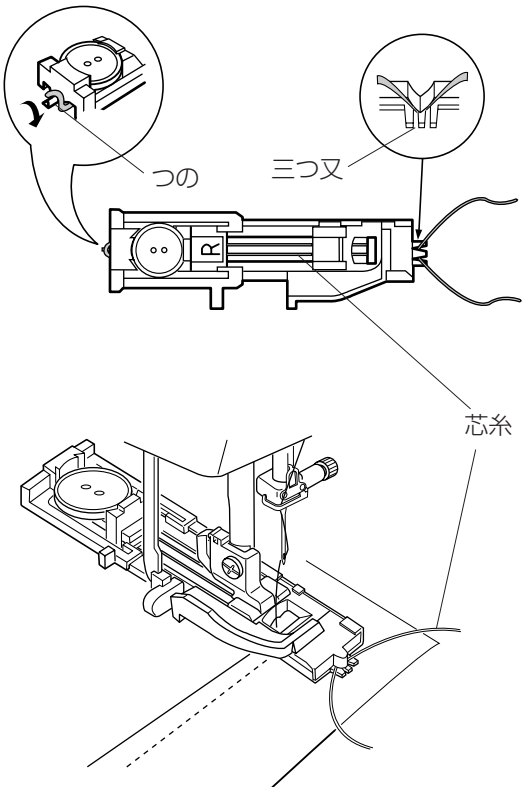
ぬい目のあらさは、両方とも0.3～0.8のはんいで0.1ずつかえることができます。

●芯入りボタンホール

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
24		 R : ボタンホール押さえ	 オート

① ②

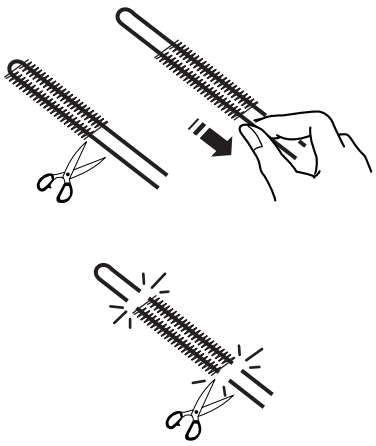


① 芯糸の 中央部を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール（スクエア）の手順と同じようにぬいます。

※ 27～29ページをごらんください。

③



③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

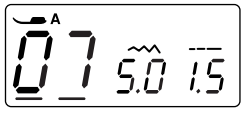
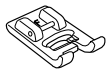
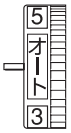
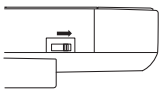
※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。

※ 穴のあけ方は、29ページをごらんください。

※ 左側の芯糸が引けないときは、前後の芯糸を切ります。

●ボタン付け

ミシンのセット

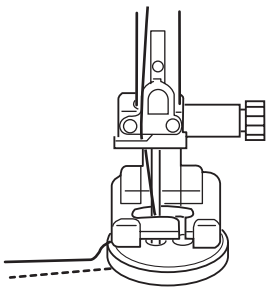
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ
07		 F : サテン押さえ		 （送り歯をさげます。）

【準備】

（1） 送り歯をさげます。

（2） ぬい目の幅をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。

① ②



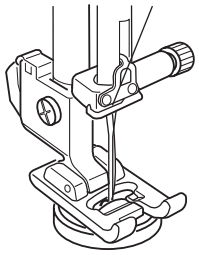
【ぬい】

① はずみ車を手前にまわして針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。

※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針折れする危険があります。

③ ④ ⑤



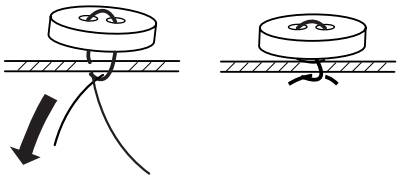
③ はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

④ スピードコントロールつまみを（ゆっくり）にセットします。

⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。

※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

⑥



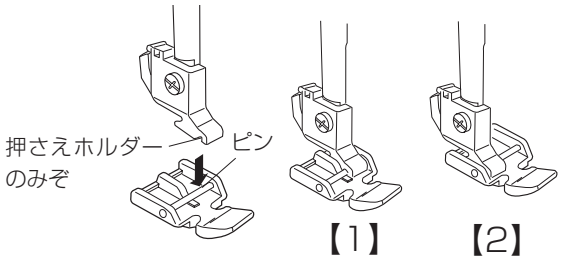
⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

●ファスナー付け

ミシンのセット

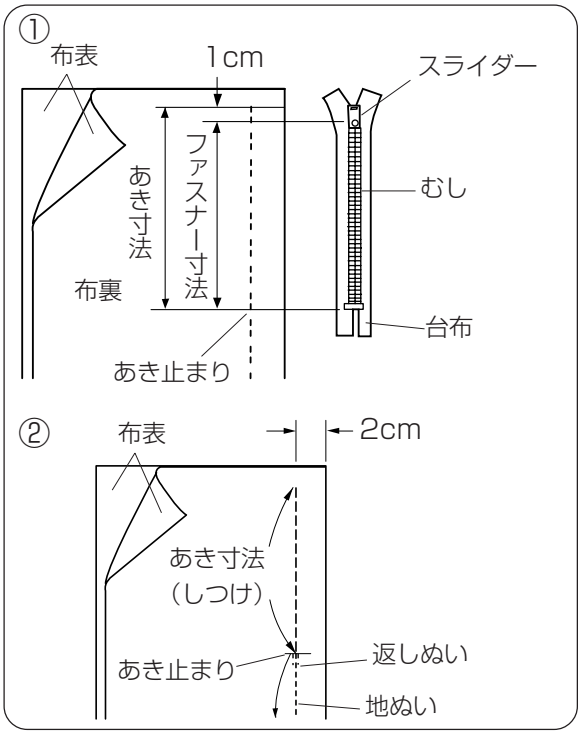
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
00	A 00 3.5 2.2	E：ファスナー押さえ	オート（5 オート 3）



【ファスナー押さえの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
右側をぬうときは、左側にセットします。

【1】左側をぬうとき
【2】右側をぬうとき

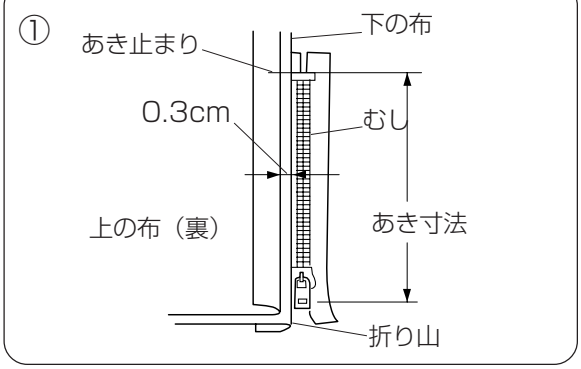


【準備】

① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬいます。
あき部分は、ぬい目のあらさ5.0でしつけぬいをします。

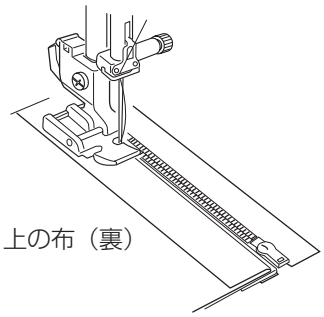
※ しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。



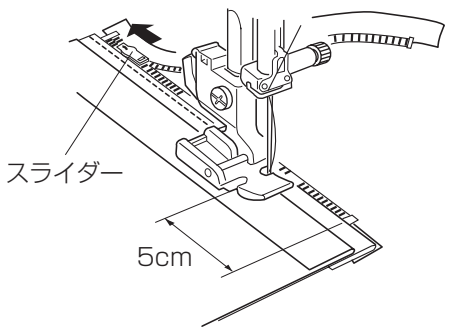
【ぬい】

① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

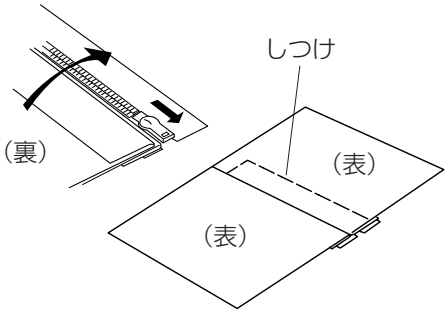
②



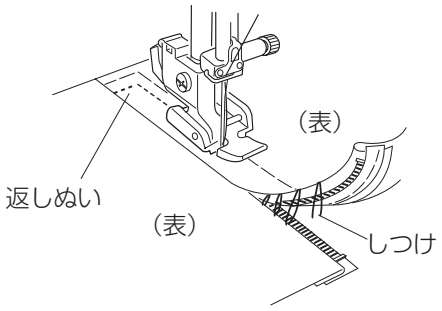
③



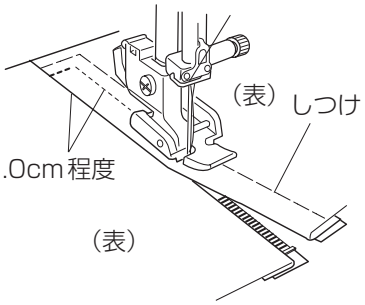
④



⑤ ⑥



⑦



② 押さえホルダーを押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

④ ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけはA基本押さえを使用します。
しつけはほどきやすいように、ぬい目のあらさを5.0、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」に戻します。

⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。
上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。

⑥ ファスナーの上側を5cmくらい残したところで止め、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

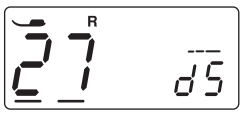
●ダーニング（つくろいぬい）

ミシンのセット

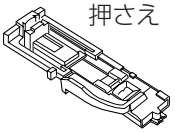
模様 27



表示画面

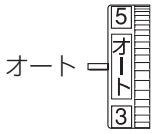


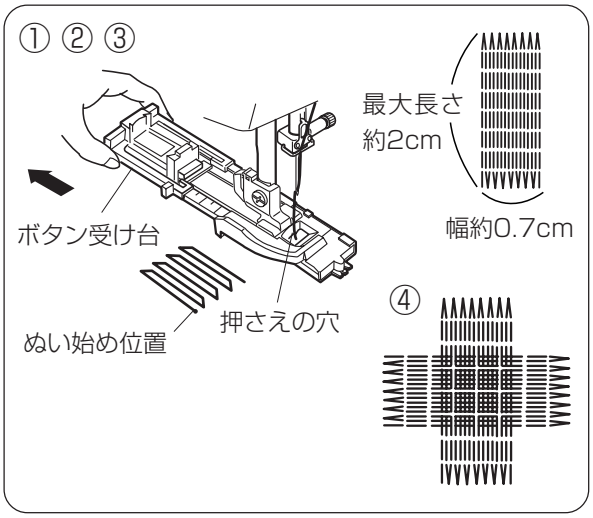
押さえ



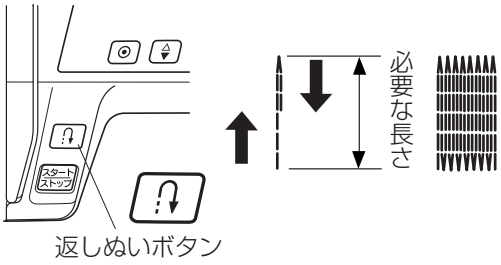
R：ボタンホール押さえ

糸調子ダイヤル





① ボタン受け台をいっぱいに引き出します。
② 上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげ自動的に止まるまでぬいます。
※ 1回のぬいで、最大長さ約2cm、幅約0.7cmまでぬえます。
④ 布の向きをかえてくり返しぬいます。
※ 糸切り予約した場合は、糸を切って自動的に止まります。



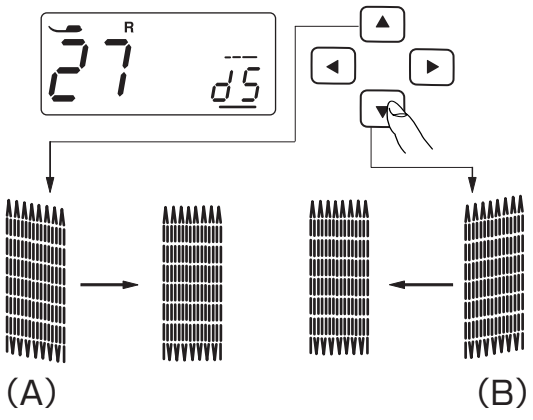
【2cmより短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押して、自動的に止まるまでぬいます。

【ダーニングの記憶】

ミシンは一度ぬったダーニングの長さを記憶しています。
別の箇所にぬうと、くり返し同じ長さのダーニングがぬえます。

※ 長さを変更してぬう場合は、あらためて模様を選び直します。



【ダーニングの形の整え方】

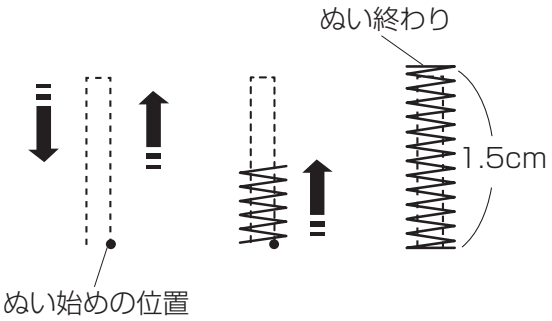
ダーニングのぬい始め（左側）と、ぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、カーソル移動ボタン ◀ ▶ でぬい目のあらさモードを選び「▲ボタン」または「▼ボタン」で調節します。

（A）右側が低いとき .... d6～d9で左右の高さがそろいます。
（B）左側が低いとき .... d1～d4で左右の高さがそろいます。

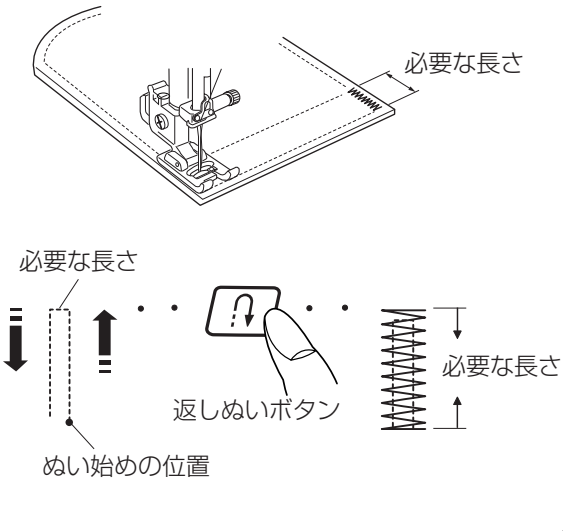
●かんぬき止めぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
28	F 28 2.0 1.5	F：サテン押さえ	オート（5 オート 3）



ぬい目に力がかかって、ほつれやすい部分などに使うと、ぬい目がしっかりします。
1回のぬいで長さ約1.5cmが自動的にぬえます。
※ ぬい目の幅は（1.0～5.0）、ぬい目のあらさは（1.0～2.5）の間でかえられます。
※ 糸切り予約した場合は、糸を切って自動的に止まります。



【1.5cm より短い長さでぬう場合】

必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押して、自動的に止まるまでぬいます。

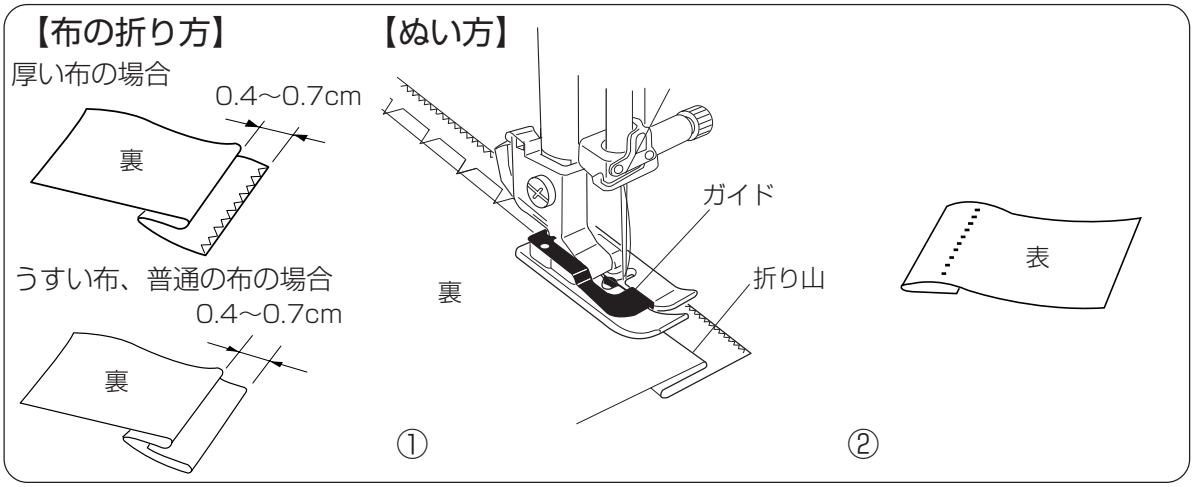
【かんぬきの記憶】

ミシンは一度ぬったかんぬき止めの長さを記憶しています。
別の箇所をぬうと、くり返し同じ長さのかんぬき止めがぬえます。
※長さを変更してぬう場合は、あらためて模様を選び直します。

●まつりぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
10	G 10 0.6 2.0	G：まつりぬい押さえ	オート（5 オート 3）



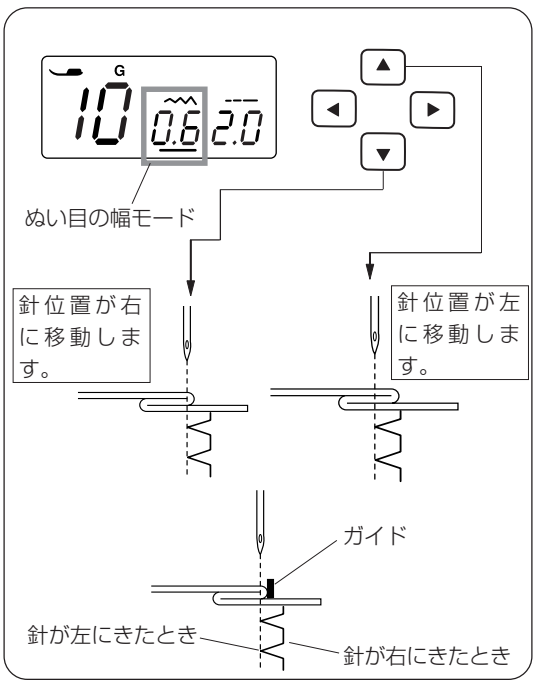
布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4～0.7cmほどはみ出させます。

① ガイドに折り山を合わせ、針が折り山から外れないように針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布を表に返します。

※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかりすぎると表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

【針位置の調節】



◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

初期値（購入時のセット状態）は 0.6 です。

※ 表示 0.6 はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。

※ 模様 10 は、ぬい目の幅は変化せず模様（針位置）が左右に移動します。

針が折り山にかからない場合「▲ボタン」を押して針位置を左に移動させます。

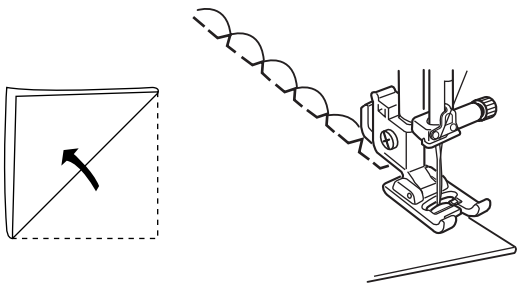
針が折り山にかかりすぎる場合「▼ボタン」を押して針位置を右に移動させます。

◎応用ぬい

●シェルタック

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
11	F 11 7.0 2.0	F : サテン押さえ	6～8



布をバイヤスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

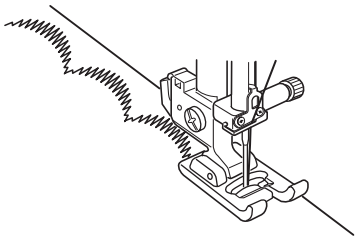
※糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

● スカラップ

ミシンのセット

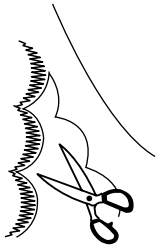
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
15	F 15 7.0 0.4	F : サテン押さえ	オート

①



①布の表から、布端を１cmくらい残してぬいます。

②



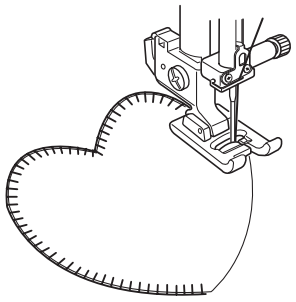
②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

●アップリケ

ミシンのセット

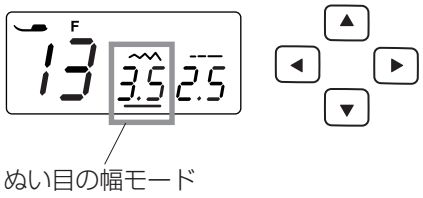
模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル	押さえ圧調節ダイアル
13 14 M R	F 13 3.5 2.5	F：サテン押さえ	オート 5 オート 3	「2～4」 3

※模様13は、中針位置（M）を移動せずに、ぬい目の幅がかえられます。
模様14は、右針位置（R）を移動せずに、ぬい目の幅がかえられます。

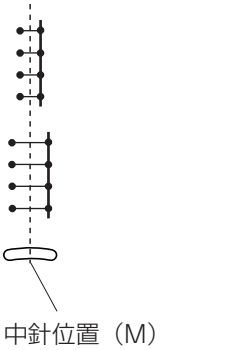


アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。針をアップリケ布の外側に落とし、アップリケ布のふちをぬっていきます。

※カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を下位置にします。
押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。



ぬい目の幅モード



中針位置（M）

【ぬい目の幅をかえるとき】

模様13の場合

◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

「▲ ボタン」を押すと、中針位置（M）を基準に、ぬい目の幅が大きくなります。

「▼ ボタン」を押すと、中針位置（M）を基準に、ぬい目の幅が小さくなります。

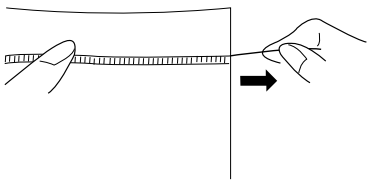
● フリンジぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
13　14	F 14 2.0 4.0	F：サテン押さえ	オート

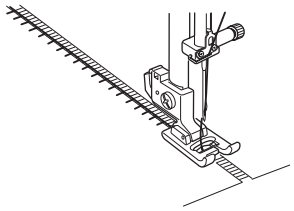
※模様13は、中針位置（M）を移動せずに、ぬい目の幅がかえられます。
　模様14は、右針位置（R）を移動せずに、ぬい目の幅がかえられます。

①



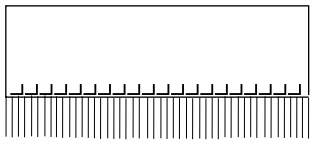
①フリンジのたばになる部分の織り糸を1～2本抜き取ります。

②

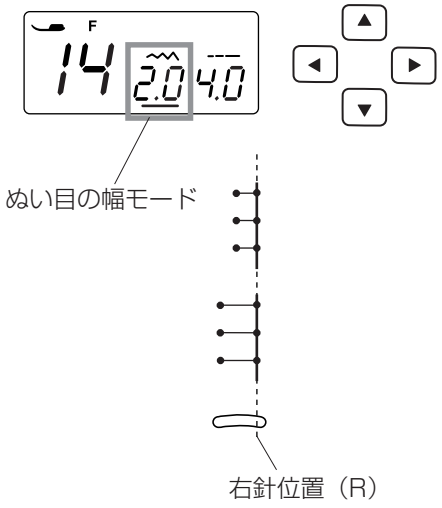


②織り糸を抜いた上をぬいます。

③



③フリンジにする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作ります。



【ぬい目の幅をかえるとき】

模様14の場合

◀ ▶ ボタンで、ぬい目の幅モードを選びます。

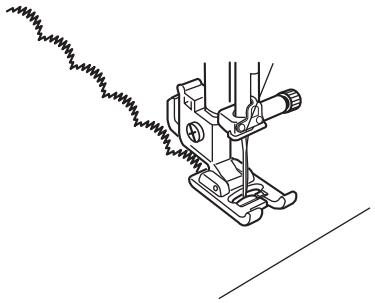
「 ▲ ボタン」を押すと、右針位置（R）を基準に、ぬい目の幅が大きくなります。

「 ▼ ボタン」を押すと、右針位置（R）を基準に、ぬい目の幅が小さくなります。

●サテン模様ぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
15 16	F 15 7.0 0.4	F：サテン押さえ	オート（5 オート 3）



布が縮むときは下に紙を敷くか、または、芯地を貼るときれいに仕上がります。

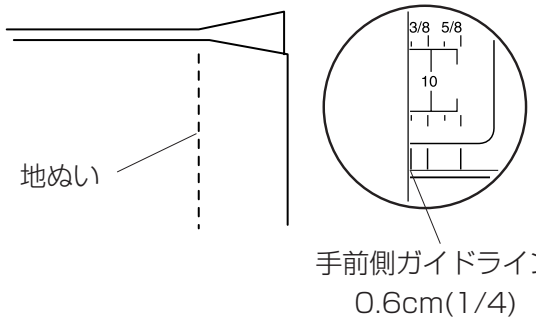
※必要な模様数の最後のぬい途中で止めぬいボタンを押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

●パッチワーク

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
20 21	F 20 5.0 2.5	F：サテン押さえ	オート（5 オート 3）

①

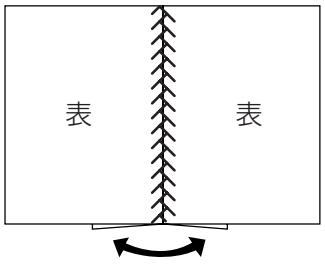


① 布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。

※ 地ぬいは、模様 18 を使用します。

※ 布端は針板の手前側ガイドライン0.6cm（1/4）に合わせてぬいます。

②

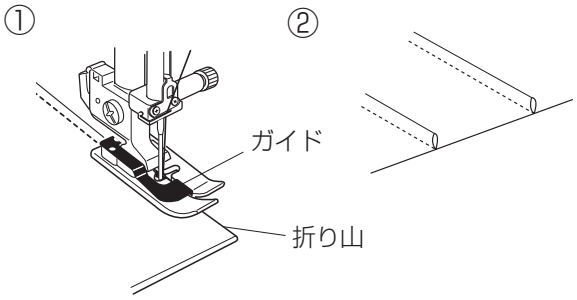


② 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●ピンタック

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
01	A 01 0.5 2.2	G：まつりぬい押さえ	オート（5 オート 3）



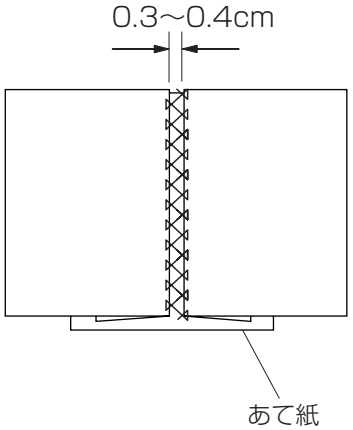
①布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

②ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●ファゴティング

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
20 22	F 22 7.0 2.0	F：サテン押さえ	オート（5 オート 3）

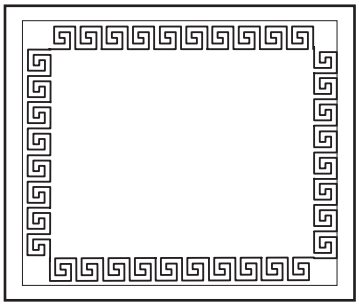


布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、下にあて紙をします。
布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。
最後にあて紙をとります。

●飾りぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
12 15 16 17 19 23	17 7.0 2.5	F : サテン押さえ	オート 5 オート 3

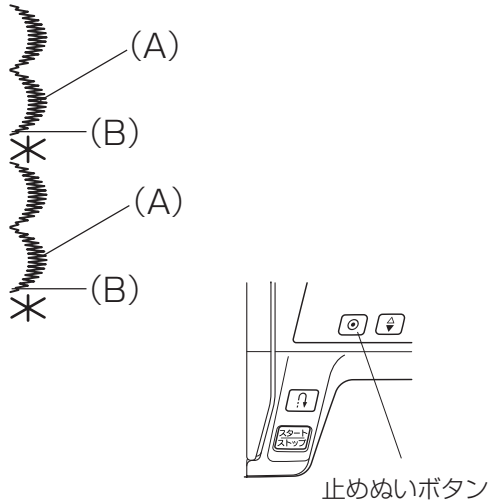


テーブルクロスなどの飾りぬいとして利用します。
布が前後する模様もありますので、ぬい目が曲がらないように、手で案内しながらぬいます。

●止めぬいボタンを使った飾りぬい

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
15 23	15 7.0 0.4	F : サテン押さえ	オート 5 オート 3

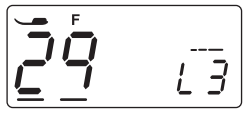
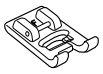


例.模様15（2個）と模様23（1個）の組み合わせ

① 模様15を選び、2個目の途中（A)で止めぬいボタンを押します。
（ぬっている途中で押してもかまいません。）
模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。
② 模様 23 を選びます。
③ ぬいの前（B）に止めぬいボタンを押します。
④ 模様 23 を 1 つぬって、自動的に止まります。
⑤ 模様 15 を選び、手順①からをくり返します。

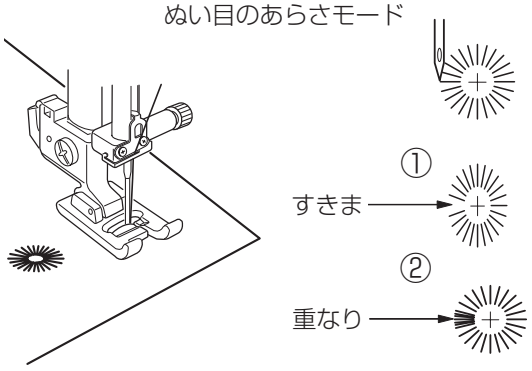
● アイレット

ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
29			
		F：サテン押さえ	オート



ぬい目のあらさモード



ぬう位置を決め、自動的に止まるまでぬいます。

※ ぬい目の内側をポンチ（市販品）などで穴を開けます。
ポンチの大きさは直径0.25cm以下のものをご使用ください。

※ 糸切り予約をした場合は、糸を切って自動的に止まります。

【アイレット形状の調節】

◀ ▶ ボタンで、ぬい目のあらさモードを選びます。 ▲ ▼ ボタンで形状調節をします。

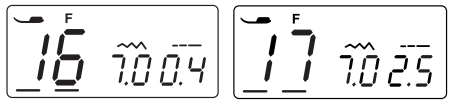
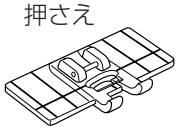
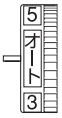
初期値（購入時のセット状態）はL3です。

① ぬい目にすきまがあるときは、L1～L2にします。

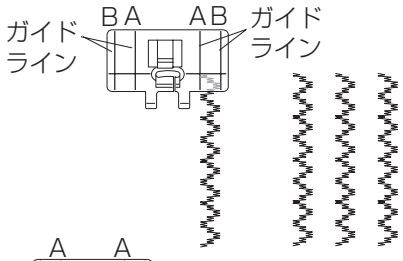
② ぬい目に重なりがあるときには、L4～L5に調節します。

● ボーダーガイド押さえの使い方

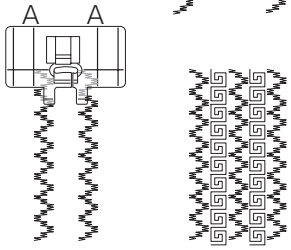
ミシンのセット

模様	表示画面	押さえ	糸調子ダイヤル
16 17			
		ボーダーガイド押さえ	オート

① ②



③



（例）模様16、模様17の組み合わせ

① 模様16を1列ぬいます。

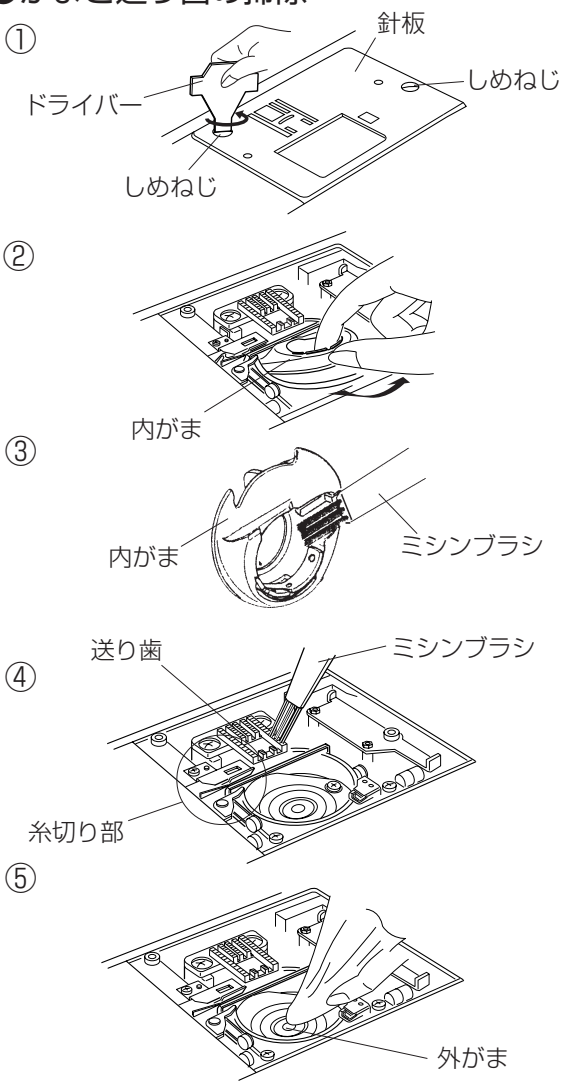
② 前にぬった模様をガイドライン A、B のあいだに合わせながら、次の模様 16 をぬいます。

③ 左右の模様16にガイドラインAを合わせながら、あいだに次の模様17をぬいます。

※ 試しぬいをしてください。

◎ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除



> **⚠ 注意**
>
> - お手入れのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。
> - お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
>
> **けが、感電の原因になります。**

※ 針と押さえホルダーを外します。

※ ボビンを取り出します。

① しめねじ２個を外し、針板を外します。

② 内がまの手前を上に引きながら外します。

③ 内がまを、ミシンブラシなどで掃除し布切れで軽くふきます。

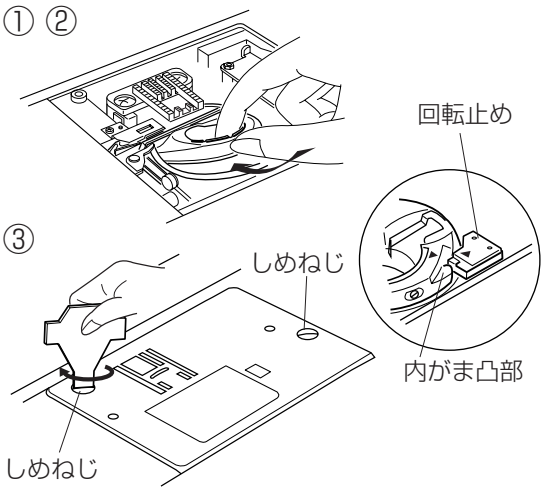
④ 送り歯のごみを、ミシンブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

※ 糸切り部のごみもミシンブラシで落としてください。

⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

●内がまと針板の組み付け



① 内がまを差し込みます。

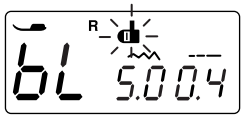
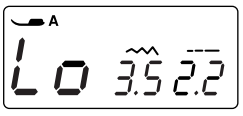
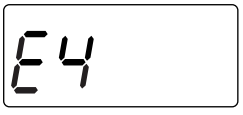
② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ ボビンを入れ、針板を取り付け、しめねじ２個をしっかりしめます。

※ 手入れが終わったら、忘れずに針と押さえホルダーを取り付けてください。

◎こんな表示が出た場合

●表示画面の対処方法

表　示	対　処　方　法
	フットコントローラーを接続した状態で、スタート／ストップボタンを押したときに、フットコントローラー表示が点滅します。 スタート／ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。
	押さえ上げをさげないで、スタート／ストップボタン（返しぬいボタン、糸切りボタン、フットコントローラー）を押したときは、押さえ表示が点滅します。 押さえ上げをさげて、スタート／ストップボタンを押します。
	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと、ボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。 ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。
	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 糸巻き軸をもとの位置に戻すまで表示されます。
	1.安全装置の作動により、ミシンモータが緊急停止したときと、その後15秒間のあいだに再スタートしようとすると表示されます。この時間はミシンの操作ができませんのでしばらくおまちください。 2.糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。電源を切り不要な糸を取り除いてください。
	ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。 電源を切り、針板を外し、かまや送り歯、糸切りメスに糸がからんでいないか確認します。 直らない場合には、電源を切り、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●ブザー音の種類

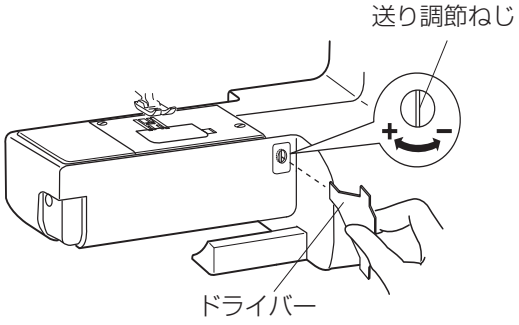
ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

◎ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。糸調子皿から上糸がはずれている。	16ページ参照
	2．上糸調子が強すぎる。	11ページ参照
	3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	12ページ参照
	4．針の付け方がまちがっている。	12ページ参照
	5．ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。	20ページ参照
	6．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	21ページ参照
	7．針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	12ページ参照
下糸が切れる	1．下糸の通し方が、まちがっている。	15ページ参照
	2．内がまの中に、ごみがたまっている。	45ページ参照
	3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する。
	4．下糸がゆるく巻かれている。	14ページ参照
針がおれる	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	12ページ参照
	2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。	12ページ参照
	3．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。	21ページ参照
	4．布に対して針が細すぎる。	12ページ参照
	5．模様に合った押さえを使用していない。	押さえを交換する。
ぬい目がとぶ	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	12ページ参照
	2．布に対して針と糸が合っていない。	12ページ参照
	3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（オプション）を使っていない。	12ページ参照
	4．上糸のかけ方がまちがっている。	16ページ参照
	5．品質の悪い針を使用している。	針を交換する。
ぬい目がしわになる	1．上糸調子が合っていない。	11ページ参照
	2．上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	15、16ページ参照
	3．布に対して針が太すぎる	12ページ参照
布送りがうまくいかない	1．送り歯に糸くずがたまっている。	45ページ参照
	2．ぬい目が細かすぎる。	ぬい目をあらくする。
	3．送り歯があがっていない。	9ページ参照
ぬい目に輪ができる	1．上糸調子が弱すぎる。	11ページ参照
	2．糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	12ページ参照
糸切りボタンでうまく糸が切れない	1．使用している糸が太すぎる。	8ページ参照
	2．糸がからまっている。	8、45ページ参照

調子が悪い場合	そ　の　原　因	直し方
ボタンホールがうまくいかない	1．ボタンホール切りかえレバーをさげていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	28ページ参照 27ページ参照
ミシンがまわらない	1．電源のつなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。	5ページ参照 45ページ参照 14ページ参照 6ページ参照
音が高い	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	45ページ参照 45ページ参照
模様がくずれる	1．模様が正しく調整されていない。	模様の形の整え方を参照

【模様の形の整え方】



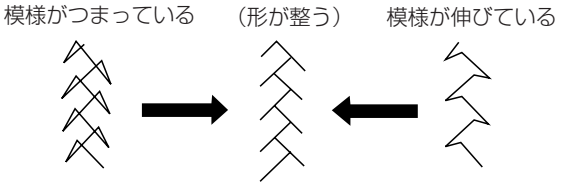
布の種類などによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。（補助テーブルを外します。）

例【模様  のとき】

模様がつまっているとき..... 送り調節ねじを「+」の方向にまわします。

（形が整う）

模様が伸びているとき .....送り調節ねじを「−」の方向にまわします。



修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
●無料修理保証期間内およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。

1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
お客様相談室　TEL. 0120-026-557（フリーダイヤル）
042-661-2600
受付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）

メールでのお問い合わせは、ホームページ http://www.janome.co.jp
問合せフォームをご利用ください。

仕　様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	35W
外形寸法	幅 40.6cm ×奥行 18.4cm ×高さ 29.8cm
質　量	6.0kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時　毎分 820 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。